Acceleration Program
大学教育再生加速プログラム

平成２９年度

県立広島大学大学教育再生加速プログラム（ＡＰ）

事業報告書

県立広島大学
Prefectural University of Hiroshima

平成２９年度県立広島大学ＡＰ事業報告書 目次

（１）県立広島大学ＡＰ事業の概要 3

1 平成２９年度　県立広島大学ＡＰ事業について …… 4
2 事業概要図 …… 6
3 平成２９年度ＡＰ事業推進部会　開催状況 …… 7
4 平成２９年度教育改革推進委員会　開催状況 …… 10

（２）県立広島大学型アクティブ・ラーニング（ＣＬＡＬ）の推進 11

1 平成２９年度　担当科目におけるＡＬ実施状況調査　調査票 …… 16
2 平成２９年度　担当科目におけるＡＬ実施状況調査　集計結果 …… 18
3 平成２９年度　ＡＬの実施に係る意識調査　調査票 …… 21
4 平成２９年度　ＡＬの実施に係る意識調査　集計結果 …… 23
5 授業ピアレビュー　授業参観シート …… 28
6 行動型学修に参加する学生への経費助成に関する要領 …… 29
7 平成２９年度「行動型学修に参加する学生への経費助成」申請一覧 …… 31
8 取組まとめ（教育改革フォーラム　ＦＤｅｒグループ１報告資料）…… 32

（３）ファカルティ・ディベロッパー（ＦＤｅｒ）の養成 35

1 第１回ＦＤｅｒ養成講座　チラシ，次第，意見・感想一覧 …… 40
2 第２回ＦＤｅｒ養成講座　資料，意見・感想一覧 …… 43
3 第３回ＦＤｅｒ養成講座　チラシ，資料，意見・感想一覧 …… 47
4 第４回ＦＤｅｒ養成講座　資料 …… 55
5 ＦＤｅｒ自己評価ルーブリック（試行版）…… 61
6 取組まとめ（教育改革フォーラム　ＦＤｅｒグループ２報告資料）…… 62

（４）学修支援アドバイザー（ＳＡ）の養成 65

1 第３回ＦＤｅｒ養成講座　ＳＡの意見・感想一覧 …… 69
2 取組まとめ（教育改革フォーラム　ＦＤｅｒグループ４報告資料）…… 70

（５）学修成果の可視化 73

1 ＡＬｅｒ自己評価ルーブリック（試行版）…… 75
2 取組まとめ（教育改革フォーラム　ＦＤｅｒグループ３報告資料）…… 76

（６）高大接続改革の推進 79

1 平成２９年度広島県高等学校教育研究・実践合同発表会　チラシ …… 83
2 全体会　本学報告資料 …… 84
3 分科会　本学発表ポスター（１１学科＋２センター）…… 89
4 意見・感想一覧 …… 102

（７）テーマＩ採択校連携事業の実施・広報活動 103

1 ＡＰ事業推進部会ニュース Vol.4 …… 108
2 SPOD フォーラム 2017　ポスターセッション　発表ポスター …… 110
3 高知大学 AP シンポジウム　ポスターセッション　発表ポスター …… 111

（８）教育改革フォーラムの開催 113

1 平成２９年度県立広島大学教育改革フォーラム　プログラム …… 117
2 事業報告①資料 …… 118
3 ポスターセッション資料発表ポスター …… 122

（９）ＡＰ評価委員会の開催 129

平成２９年度県立広島大学ＡＰ評価委員会の開催 …… 130

（１）県立広島大学ＡＰ事業の概要

平成２６年度に文部科学省・大学教育再生加速プログラム（ＡＰ）テーマＩ（アクティブ・ラーニング）に選定された私たちの事業は，生涯学び続ける自律的な学修者（アクティブ・ラーナー）の育成を目指し，「**県立広島大学型アクティブ・ラーニング（CLAL）の推進**」，「**ファカルティ・ディベロッパー（FDer）の養成**」，「**学修支援アドバイザー（SA）の養成**」を中心的な取組に据え，事業をスタートさせた。平成２８年には当初の４年間から６年間へ事業期間が延長されたことから，目標の再設定を行うとともに，隣接テーマである「**学修成果の可視化**」及び「**高大接続改革の推進**」を新たに取組事項に加えた。

平成２９年度事業は，上記５つの取組の推進とともに，FDer による組織的教育改善の仕組みの強化を図った。具体的には，事業運営に当たる FDer の役割を「組織的教育改善」「アクティブ・ラーニングの実践と普及」「学修成果の把握」「学修支援アドバイザーとの協働」の４グループに分け，グループ長を中心とした機動的な事業実施を促進した。

資　料

（１）－１　平成２９年度　県立広島大学ＡＰ事業について

（１）－２　事業概要図

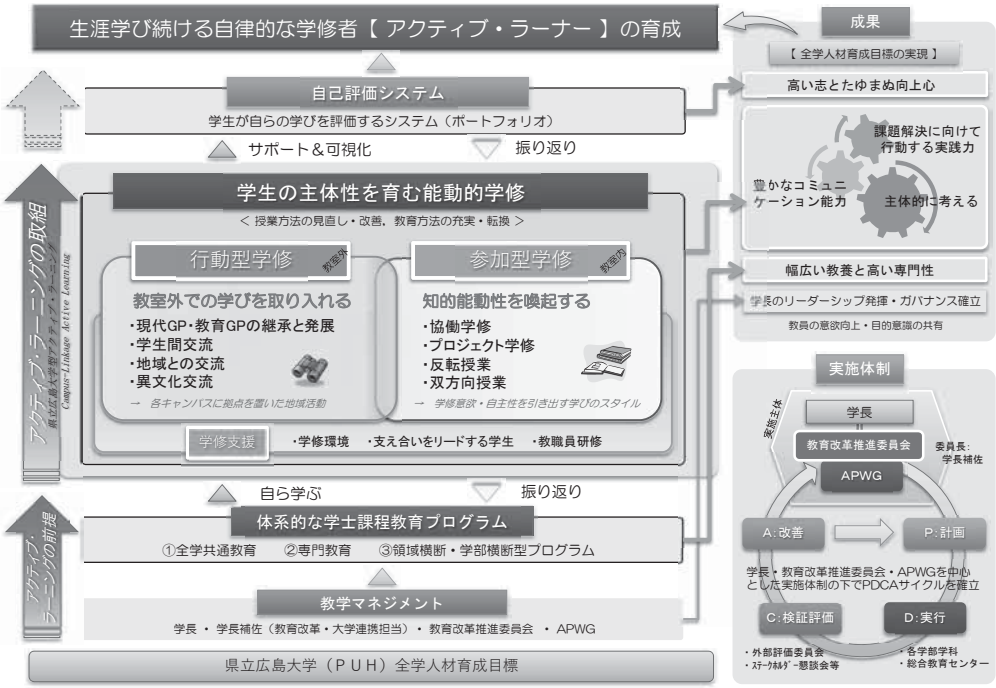
（１）－３　平成２９年度ＡＰ事業推進部会　開催状況

（１）－４　平成２９年度教育改革推進委員会　開催状況

平成 29 年度　県立広島大学 AP 事業について

（１）事業概要

県立広島大学の AP 事業は，授業方法の見直し・改善により，行動型学修（教室外での能動的な学び）と参加型学修（教室内での能動的な学び）を軸とする県立広島大学型アクティブ・ラーニング（Campus Linkage Active Learning：CLAL）を導入して教育改革を進め，学生の学修意欲を喚起することで，幅広い教養と高度な専門性を備えた生涯学び続ける自律的な学修者（アクティブ・ラーナー：ALer）を育成することを目的としている。



教育改革の実質化を目的として 25 年度に設けた学長補佐（教育改革・大学連携担当）を長とする「教育改革推進委員会」のもと，事業推進主体である「AP 事業推進部会」が中心となり，次に掲げる５つの取組を重点的に推進し，ALer 育成に向けた大学改革を図っている。

[1] アクティブ・ラーニングの導入・実践支援
[2] ファカルティ・ディベロッパー（FDer）の養成と授業改善
[3] 学修支援アドバイザー（SA）の養成と学修支援
[4] 学修成果の可視化方策の検討
[5] 高大接続改革の推進

アクティブ・ラーニング（AL）に関する研修の実施や学修環境の整備をはじめとして，教育改善を牽引する教員の育成，学生との協働による教育改善，ALer としての学生の成長把握，AL を核とした高大接続の在り方の模索といった各取組を一体的・複合的に推進することで，着実に成果を上げるとともに，事業終了後も持続的に教育改善に取り組む制度づくりに努めている。

（２）平成 29 年度の取組概要

平成 28 年度までに引き続き，上記５つの取組の着実な推進を図った。（詳細は各章参照）

また，FDer を中心とした組織的な教育改革を進めるため，AP 部会直轄の「FDer 連絡調整ワーキンググループ」を設けた。この WG の中で FDer は「①組織的教育改善」「②AL 実践と普及」「③学修成果の把握」「④学修支援アドバイザーとの協働」のいずれかの役割別グループに所属し，キャンパス内はもちろん，他キャンパスの FDer と相互に連携しながら，機動的に教育改善に取り組んだ。

■平成 29 年度の取組のポイント（大学教育再生加速プログラム（ＡＰ）平成２９年度実施状況報告書から抜粋）

【学内の実施体制】

1) AP 事業推進部会（学長直轄の教育改革推進委員会のもとに置かれた専門部会）：学部やセンターを代表する教員と，キャンパス教学関係部署を代表する職員とで構成され，月１回のペースで事業推進の諸課題を審議した。

2) FDer 連絡調整ワーキンググループ：AP 事業推進部会員である教員，ならびに各学科・センター等に所属する教員から選ばれたファカルティ・ディベロッパー（FDer，29 年度末時点で 49 名）によって構成される。4 つの役割分担ごとにチームを組み，実務を推進するとともに，FDer 自己評価ルーブリックによって示された到達目標へ向けて研鑽を図った。

［４つの役割分担］①組織的教育改善　②AL 実践と普及　③学修成果の把握　④SA との協働

【中心となる取組】

1) FDer 養成：アクティブ・ラーニング（AL）の実践者であり，かつ学内への AL 普及を担う FDer の養成（研修会を 5 回開催）に取り組んだ。平成 29 年度からは，FDer 相互の授業ピアレビューを導入し，他の FDer の授業ノウハウを学ぶとともに，相互に評価するスキルを磨いた。それに加え，県内高等学校への授業参観を実施し，高大接続改革を見据えた中等教育との交流促進を図った。

2) 学修支援アドバイザー養成：ラーニングコモンズ等での個別学修支援，教員の要請による授業内外の AL 学修支援，学生の学びを学生視点で観察する授業ピアレビュー等を行う学修支援アドバイザー（Study Advisor：SA）を養成し，教員と職員が連携して SA 活動のフォローを行った。

3) 行動型学修，参加型学修への継続的な支援：上記の FDer，SA の活動とあわせ，学外学修への交通費助成や ICT 機器の購入・貸出により，県立広島大学型アクティブ・ラーニング（Campus Linkage Active Learning: CLAL）を推進した。また，これによる学生の成長を測るべく，アクティブ・ラーナー（ALer）自己評価ルーブリックを作成し，測定を試行した（平成 30 年度に継続検討予定）。

【取組の成果】

1) H29 年度 AL 実施状況調査において，本学が定める AL 手法を１つ以上導入している授業が 92.1%，このうち AL を１学期に 300 分以上導入している授業（CLAL 基準適合科目）が 67.2%となった。

2) 学生基点の授業改善を目的とし，FDer が相互に授業を参観し，学生の動きや学びの様子を評価しあう「授業ピアレビュー」を行った。

［前期実績］公開 35 科目，参観 31 名／［後期実績］公開 54 科目，参観 44 名

3) 高大接続の促進を図るため，高等学校長経験者による講演，高等学校授業参観，合同発表会）を行った。

［高校授業参観実績］訪問校数：4 校，人数：のべ 25 名

【補助期間終了後の継続発展に向けた取組】

ALer 育成を軸とした教育改革を持続可能な形で実施するため，行動型学修推進経費の助成基準や運用方法の見直しに着手したほか，ALer 育成を見据えた教職員研修の在り方について検討を開始した。

【学内外への波及効果】

事業成果の学内外への波及を図るため，下記の広報活動に取り組んだ。

1) 広報物の作成・配付：①H28 年度年次報告書（600 部），②ニューズレター Vol.4（9,000 部）

2) 「Find!アクティブラーナー」を利用した授業動画の撮影・公開（テーマⅠ連携事業）：撮影・公開１件（生命環境学部授業）／再生数 252 回（YouTube，H30.7.4 現在）

3) 平成 29 年度広島県高等学校教育研究・実践合同発表会への参画：発表 14 件，参加 308 人（学外者含む）

4) 平成 29 年度教育改革フォーラムの開催：参加 186 名（学外者含む）

5) 外部での成果発表：発表７件，参加者 738 名

6) 学外からの視察対応：他大学等による訪問調査 2 件

大学等名：県立広島大学
テーマ　：テーマⅠ（アクティブ・ラーニング）

取組概要　地域活動を組み込み、主として教室外で行う「行動型学修」と、学修者の知的能動性を揺り動かし深い学びを喚起する「参加型学修」を組み合わせた「能動的学修」を学士課程教育に計画的に導入して教育改革を進める全学的な取組である。これにより、幅広い教養と高度な専門性を備えた人材を育成し、生涯にわたり学び続ける自律的な学修者アクティブ・ラーナーの育成を目指す。

県立広島大学型　アクティブ・ラーニング　Campus Linkage Active Learning 【CLAL】

学生の主体性を育む能動的学修

行動型学修（教室外）

教室外での学びを取り入れる

・学生間交流
・地域との交流
・異文化交流

→ *各キャンパスに拠点を置いた地域活動*

フィールドワーク
現場体験
インターンシップ
学修成果発表会

参加型学修（教室内）

知的能動性を揺り動かす

・協働学修
・反転授業
・プロジェクト学修
・双方向授業

→ *学修意欲・自主性を引き出す学びのスタイル*

振り返り
プレゼンテーション
ディスカッション・ディベート
授業公開促進

学修支援

◇ 学修環境の整備　行動型学修実践支援
◇ 支え合いをリードする学生の育成　学修支援アドバイザー育成
◇ 教職員研修の充実　ファカルティ・ディベロッパー養成

教育改革のSTEP：教学マネジメント → 体系的な学士課程教育プログラム → 教育方法の見直しと充実 授業方法の転換・改善 → 自己評価システム → 生涯学び続ける自律的な学修者【アクティブ・ラーナー】

数値目標	指標	26年度（実績値）	28年度（実績値）	31年度（目標値）
	アクティブ・ラーニングを受講する学生の割合*	100%	100%	100%
	ファカルティ・ディベロッパー養成	0人	36人	30人
	学修アドバイザー育成	0人	41人	55人

＊ 28年度以降の数値目標はアクティブ・ラーニングを再定義した上での値である

学長のリーダーシップの下，教育改革に取り組む。本学での学びに対する学生の満足度を高め，卒業生の活躍により地域への波及効果を狙う。

- 教室外での学びを取り入れ，学修意欲・自主性を引き出す新たな教授法による授業外学修の充実を加速する。
- 知識を活かせる人材の育成を目指して，真の問題発見力や課題解決力，論理的思考力を育む。
- FD・SD活動の充実により，教職員の意欲を向上させる。目標を共有し，教育の質的改善に全学的・組織的に継続して取り組む。
- 学生同士が教え合うことで，学びを定着させる。

【平成２９年度ＡＰ事業推進部会　開催状況】

回数	日時	議題（審議事項）
第1回	平成29年 4月24日（月） 13：10～	【審議事項】 1　平成29年度AP事業計画について （1）AP事業計画・推進体制について （2）「行動型学修に参加する学生への経費助成」の実施について （3）FDer養成計画について （4）学修支援アドバイザー養成計画について 2「Find！アクティブ・ラーナー」掲載用授業動画の選定について 【報告事項】 1　平成28年度AP補助金の実績報告について 2　その他
第2回	平成29年 5月29日（月） 16：20～	【審議事項】 1　平成29年度AP事業計画について （1）FDer及び学修支援アドバイザー養成に係る意見照会結果 （2）平成29年度AP事業年間計画 （3）第1回FDer養成講座について 2　平成29年度「行動型学修に参加する学生への経費助成」について 3「Find！アクティブ・ラーナー」掲載用動画の撮影に係る対応について 4　アクティブ・ラーナーとしての成長を促すルーブリックの作成について 【報告事項】 1　平成28年度AP評価委員会の開催報告及び委員からの評価について 2　平成28年度AP補助金の実績報告について 3「AP事業推進部会ニュース」第4号の作成について
第3回	平成29年 6月26日（月） 16：20～	【審議事項】 1　部会員の追加について 2　AP事業における各取組の役割分担について 3　FDer自己評価ルーブリック及び平成29年度FDer養成講座の年間計画について 4　アクティブ・ラーナーとしての成長を促すルーブリックの作成について 【報告事項】 1「Find！アクティブ・ラーナー」掲載用動画の撮影に係る対応について 2　平成29年度第1回FDer養成講座（兼）第1回FD研修会の開催について 3　行動型学修に参加する学生への経費助成に係る申請・審査状況について
第4回	平成29年 7月31日（月） 16：20～	【審議事項】 1　平成29年度AP推進体制図の修正について 2　FDer役割別計画について 3　第3回FDer養成講座について 4　広島県教育委員会との高大連携事業について 【報告事項】 1　大学教育再生加速プログラム中間評価の実施について 2　第1回FDer連絡調整WGの開催報告について 3　平成29年度第2回FDer養成講座の開催報告について 4　第3回AP事業テーマⅠ採択校協議会への参加について 5「Find！アクティブラーナー」掲載用動画の撮影について 【意見交換】 1　授業ピアレビューの総括及び意見交換

第5回	平成29年 8月28日（月） 16：20～	【報告事項】 1　大学教育再生加速プログラム中間評価調書の提出について 2 「SPODフォーラム2017」ポスターセッションへの発表参加について 3　平成29年度第3回FDer養成講座の開催について 4　平成29年度県立広島大学ティーチングポートフォリオ更新ワークショップ（第4回FDer養成講座）の開催について 5　平成29年度広島県高等学校教育研究・実践合同発表会の開催日について 6　行動型学修に参加する学生への経費助成に係る申請・審査状況について
第6回	平成29年 9月25日（月） 16：30～	【審議事項】 1　後期授業ピアレビューの実施について 2 「FDerによるアクティブ・ラーニング実践」事例集の作成について 3　学修支援アドバイザーの運用に係る活動費の財源について 【報告事項】 1　広島県立広島高等学校への授業見学及び公開授業研究会への参加について 2　平成29年度後期のAP事業推進に係る目標・計画について 3　平成29年度第3回FDer養成講座の開催報告について 4　平成29年度第4回FDer養成講座の開催報告について 5 「平成29年度高知大学AP事業シンポジウム」におけるポスター発表参加について 6　行動型学修に参加する学生への経費助成に係る申請・審査状況について
第7回	平成29年 10月30日（月） 16：40～	【審議事項】 1　平成29年度後期末に向けたグループ別事業推進について 2　平成29年度広島県高等学校教育研究・実践合同発表会の開催計画について 3　平成29年度AP評価委員会及び教育改革フォーラムの開催計画について 【意見交換】 1　平成29年度後期の学修支援アドバイザー養成・運用計画について 【報告事項】 1　FDer役割分担表の変更について 2　AP事業「H29後期授業ピアレビュー」授業公開予定の取りまとめ状況について 3　高等学校への授業見学について （1）広島県立広島高等学校 （2）広島県立三次高等学校 （3）広島市立安佐北高等学校／舟入高等学校 4 「平成29年度AP事業シンポジウム＆ポスターセッション」におけるポスター発表について 5　行動型学修に参加する学生への経費助成に係る申請・審査状況について
第8回	平成29年 11月27日（月） 16：20～	【審議事項】 1　平成29年度　広島県高等学校教育研究・実践合同発表会における本学の参画について 2　平成29年度AP評価委員会及び教育改革フォーラムの開催計画について 3　平成29年CLAL導入状況等調査の実施について 4　平成29年度AP事業における機器・備品等の購入計画について 【報告事項】 1　平成30年度重点事業に係る申請内容（AP事業）について 2　第1回FDerワーキンググループ長会議の開催について 3　AP事業「H29後期授業ピアレビュー」実施状況について 4　FDerルーブリックを用いた自己評価の状況について 5　学修支援アドバイザーの養成・運用状況について 6　広島高等学校公開授業研究会（11 月 9 日）の振り返りについて 7 「第4回APテーマⅠ採択校協議会」及び「平成29年度APテーマⅠシンポジウム」への参加について 8　行動型学修に参加する学生への経費助成に係る申請・審査状況について

第9回	平成29年 12月25日（月） 16：20～	【審議事項】 1　平成29年度　広島県高等学校教育研究・実践合同発表会における本学の参画について 2　平成29年度県立広島大学教育改革フォーラムの開催案について 3　平成29年アクティブ・ラーニング実施状況等調査について 4　平成29年度AP事業における機器・備品等購入希望の照会結果について 【報告事項】 1　第1回FDerワーキンググループ長会議の開催について 2　FDer役割別の進捗状況報告 3　AP事業に係る他大学からの訪問調査対応について 4　行動型学修に参加する学生への経費助成に係る申請・審査状況について
第10回	平成30年 1月29日（月） 16：30～	【審議事項】 1　教育改革フォーラムにおけるAL実践取組報告会（ポスターセッション）の実施について 2　「FDerによるアクティブ・ラーニング実践」事例集の作成について 3　授業参観結果を踏まえた振り返り促進とピアレビュー改善方策の検討について 【報告事項】 1　FDer役割別の進捗状況報告 2　平成29年度広島県高等学校教育研究・実践合同発表会の開催報告について 3　AP事業に係る訪問調査対応について（大阪市立大学） 4　平成29年アクティブ・ラーニング実施状況等調査の実施について 5　平成29年度AP事業における機器・備品等の購入について 6　行動型学修に参加する学生への経費助成に係る申請・審査状況について
第11回	平成30年 2月22日（木） 9：40～	【審議事項】 1　各FDerグループにおける事業進捗状況報告 2　平成29年度教育改革フォーラムの開催内容について 3　行動型学修に参加する学生への経費助成に係る申請・審査状況について 4　その他
第12回	平成30年 3月26日（月） 16：20～	【審議事項】 1　平成29年度AP事業の総括及び平成30年度の事業推進方針について 2　AP事業期間終了後を見据えたアクティブ・ラーナー育成方策について 3　その他 【報告事項】 1　大学教育再生加速プログラム（AP）の中間評価結果について 2　平成29年度県立広島大学AP評価委員会の開催報告について 3　平成29年度県立広島大学教育改革フォーラムの実施報告について 4　平成30年度AP事業に係る補助金調書の提出について 6　行動型学修に参加する学生への経費助成に係る申請・審査状況について 7　その他

【平成２９年度教育改革推進委員会　開催状況】

回数	日時	議題（審議事項）
第1回	平成29年 4月12日（水） 13:10～	【協議事項】 1　高大接続改革に係る具体的な取組について （1）「高校生の海外留学促進に向けた大学入試に係るお願い」への対応について （2）広島県立教育センター「教材生物バザール」への参画について 2　その他 【報告事項】 1　平成29年度教育改革推進委員会構成員について 2　AP事業実施体制について 3　平成28年度第5回AP事業推進部会報告 4　その他
第2回	平成29年 11月10日（金） 14:40～	【審議事項】 1　大学機関別認証評価・訪問調査時の指摘事項への対応にかかる学士課程全体のカリキュラム・ポリシーの修正について 【報告事項】 1　平成29年度広島県高等学校教育研究・実践合同発表会における本学の参画について 2　平成29年度AP評価委員会及び教育改革フォーラムの開催計画について 3　大学教育再生加速プログラム中間評価調書の提出について 4　AP事業（FDer 養成）を通じた授業改善の取組について 5　その他
第3回	平成30年 3月29日（木） 16:20～	【審議事項】 1　平成29年度AP事業の総括及び平成30年度の事業推進方針について 2　AP事業期間終了後を見据えたアクティブ・ラーナー育成方策について 3　その他 【報告事項】 1　大学教育再生加速プログラム（AP）の中間評価結果について 2　平成29年度県立広島大学AP評価委員会の開催報告について 3　平成29年度県立広島大学教育改革フォーラムの実施報告について 4　平成30年度AP事業に係る補助金調書の提出につい

（２）県立広島大学型アクティブ・ラーニング（ＣＬＡＬ）の推進

県立広島大学型アクティブ・ラーニング（Campus Linkage Active Learning: CLAL）は，①地域へフィールドワークに出かける，あるいは，他キャンパスへ出向いて一同に会するなど，地域やキャンパス間の交流を通じて学びを深める「行動型学修」，②主に教室内で行うグループワークやプレゼンテーションを中心に能動的な学びの姿勢を養う「参加型学修」，以上の２つから構成される。それぞれの要素を複合的に取り入れた「複合型」の実践も多く展開されている。

CLAL推進のため,平成２９年度前期よりFDer間の授業ピアレビューを開始し,後期には学修支援アドバイザーの参観も開始した。300分の基準に足るCLALの導入率は平成２８年度と比較して減少したが，時間数に関わらず導入した授業の比率は，同じ基準で実施した３年前の結果とくらべ，大きく伸びたことが示された。アクティブ・ラーニングの実施に対する教員の意識の上で，量から質への変化を思わせる結果となった。

資　料

（２）－１　平成２９年度 担当科目におけるＡＬ実施状況調査　調査票

（２）－２　平成２９年度 担当科目におけるＡＬ実施状況調査　集計結果

（２）－３　平成２９年度 ＡＬの実施に係る意識調査　調査票

（２）－４　平成２９年度 ＡＬの実施に係る意識調査　集計結果

（２）－５　授業ピアレビュー　授業参観シート

（２）－６　行動型学修に参加する学生への経費助成に関する要領

（２）－７　平成２９年度「行動型学修に参加する学生への経費助成」実績一覧

（２）－８　取組まとめ（教育改革フォーラム　FDerグループ１報告資料）

■県立広島大学アクティブ・ラーニング（ＣＬＡＬ）の推進

＜前年度評価委員会における指摘事項（抜粋）＞

・行動型学修について，学修目標と繋がりを考察する
・ＣＬＡＬ調査を踏まえた働きかけの強化が必要
・能力とそれを伸ばすための授業方法の設計
・３ポリシーと授業改善の結びつきの可視化
・教員のＡＬに対する理解度向上のためのＣＬＡＬ導入の的確な支援
・教育効果の測定方法研究
・ＡＬを講義の一環，ツールとして捉えた仕組みづくり

＜平成２９年度事業推進計画＞

●これまでに実施した「ＣＬＡＬ導入状況及び意識調査」の結果分析から，学内でのＣＬＡＬに対する意識をさらに高めるとともに，行動型学修・参加型学修を推進しながら，「幅広い教養と高度な専門性を備えたアクティブ・ラーナー」を育成するためのＣＬＡＬのあり方を引き続き検討する。
●授業公開・相互評価（ピアレビュー）の充実を図り，授業改善を促進するとともに，ＣＬＡＬの質的向上につなげる。
●学内教職員の先進事例調査への積極的な参加を促し，その成果を学内に還元する仕組みを促進する。

＜平成２９年度事業推進状況＞

（１）アクティブ・ラーニング実施状況及び意識調査結果分析について

平成２９年度におけるＡＬの実施状況及び実施に係る教員の意識の把握を目的として，下記のとおり２種類の調査を実施した。

【実施概要】

ア　実施期間　平成３０年１月２２日（月）～平成３０年２月２日（金）
イ　対象教員　平成２９年度に学部の授業を担当している全教員（非常勤講師を含む）
ウ　調査の種類　① p. 18「平成２９年度 担当科目におけるＡＬ実施状況調査」
② p. 21「平成２９年度 ＡＬの実施に係る意識調査」

	① 実施状況調査	② 意識調査
調査目的	○平成 29 年度の全開講科目※1 における CLAL の導入状況の把握 ○未導入科目における未導入理由の把握	CLAL の導入に対する意識の把握
調査方式	質問紙の配布・回収	
調査対象の単位	科目単位 （当該教員が担当する全開講科目※2 の導入状況を調査する）	教員単位 （担当科目数に関わらず，教員個々人の意識を調査する）
質問内容	○CLAL の導入状況 （CLAL の定義を満たしているか。） ○実施しているアクティブ・ラーニングの手法	○CLAL を導入したことによる学生への効果 ○CLAL を導入していない理由 ○CLAL の導入に必要な支援等の要望

※1　平成２９年度「授業改善のためのアンケート」実施科目が対象。ただし，履修者が５人以下の科目も含める。
※2　オムニバス形式の授業については，代表者に回答を依頼。

エ　調査結果の活用方法検討

ＡＬ実施状況調査結果（p. 18），ＡＬの実施に係る意識調査結果（p. 23）について，ＦＤｅｒ役割別グループ１「組織的教育改善」において，活用方法に係る具体の検討を行った。

【成果と今後の課題】

調査において，ＡＬを実施しない理由として，「知識修得を優先すべき科目もある」「ＡＬの量よりも『質』を重視している」といった意見が多く見られた。ＡＬの実施を推奨するのみではなく，ＡＬの実施効果が認められる授業を精査したうえで，実施する授業を選択し，新たな推進方法を検討すべき時期に来ていると思われる。そのためには，ＣＰやＤＰとの連動性を意識した科目のあり方や，科目間のシラバスの精査が，授業担当教員間の連携において必要である。このことは，カリキュラムへの提言を行えるＦＤｅｒを養成するという観点からも，必要な作業になってくると思われる。

また，授業実施に係る準備時間の増加等の教員負担という課題は依然として残っており，負担の軽減とあわせて，推進する教員への適正な評価・インセンティブの付与といった，学内の仕組みという視点でのＣＬＡＬ推進も必要であると思われる。

（２）授業公開・相互評価（ピアレビュー）の充実，授業改善の促進

教員相互が学びあう仕組みを構築し，個々の授業内容の質的向上に繋げるため，授業公開・相互評価（ピアレビュー）を実施した。

相互評価にあたっては，授業内容を評価するのではなく，授業を受けている学生の学びの姿を観察しあうことで，授業担当教員が自らの授業を振り返るための気付きを得ることを目的とした。

【実施概要】事業は，ア　事前研修，イ　授業公開，ウ　振り返りの３段階において実施した。

ア　ピアレビュー実施前の教員研修

平成２９年度第２回ＦＤｅｒ養成講座において，「ピアレビューを通じた授業力向上」をテーマとして授業展開力・観察力・評価力を身に付けるための研修を行った。

実施期間：広島キャンパス：平成２９年６月２８日（水）１６：３０～１８：００
庄原キャンパス：平成２９年６月３０日（金）９：００～１０：３０
三原キャンパス：平成２９年７月４日（火）９：００～１０：３０

実施教員：総合教育センター　門戸　千幸　教授（AP 事業推進部会　副部会長）

参加者数：３５人

参加者感想：p. 43「第２回ＦＤｅｒ養成講座　意見・感想一覧」のとおり。

イ-１　前期ピアレビュー

実施期間：７月４日（火）～９月５日（火）

公開授業コマ数：６０

公開教員数：３１名

参観教員数：４６名

イ-２　後期ピアレビュー

実施期間：１１月１日（水）～１２月２２日（金）※期間外実施授業あり

公開授業コマ数：１５８

公開教員数：４４名

参観教員数：４６名

ウ　振り返り

授業参観シート（p. 28）及び事後の意見集約により，ピアレビューを受けた教員の意見，ピアレビューを行った教員の意見を取りまとめ，改善点や今後の対応について検討を行った。

【成果と今後の課題】

実際に授業公開を行った教員からは，指摘事項により自らの授業改善のきっかけとなった等の声が多く，教員相互の授業改善の仕組みとして一定の効果が見られた反面，参観者がによって評価にバラツキが見られ，学生の様子ではなく教員の授業方法にのみ集中して見てしまう等，参観スキルに係る改善点も見られた。

また，前期から後期にかけて，ＦＤｅｒ以外による公開授業数が大幅に増え，徐々に授業公開に対する敷居が低くなってきたと思われる。一方，ＦＤｅｒ以外の教員の参観者は横ばいであり，他者の授業参観から学ぶことへの興味・関心の低さに課題が見られた。

今後は，学内の既存担当部署と緊密な連携をとり，全学的な仕組みとして制度を実施するほか，授業公開については，学生の支持率が高い教員の授業を積極的に公開するなど，量的な面ではなく質的な面における共有を意識した仕組みの改善についても検討する必要がある。

また，ＦＤｅｒのグループ間で緊密に連携することで，更なる授業改善に繋がっていくと思われる。（例えば，学修支援アドバイザー養成講座における「学生による授業参観（学生が授業における学生の学びの姿を観察し，他学生の成長を促す取組み）」との相互連携等）

（３）学内教職員の先進事例調査推奨

学内におけるアクティブ・ラーニング実践・普及の更なる加速や，ＡＰ事業の企画の参考とするため，先進事例調査として，学外で実施されたセミナーやフォーラム等のイベントに参加した。また，研修参加者が学内教職員へ学んだことを還元するため，研修報告書を教職員専用サイトへ掲載し，内容を共有した。

【参加研修一覧】　　期間：平成２９年４月１日～平成３０年３月３１日

	日程	セミナー等名称（場所）	参加人数
1	H29.6.9～6.10	大学教育学会第 39 回大会（広島大学）	2 人
2	H29.7.18	公立大学協会副学長等協議会教育改革分科会	3 人
3	H29.8.23～8.25	SPOD フォーラム 2017（徳島大学）	3 人
4	H29.8.8	比治山大学 AP セミナー（比治山大学）	2 人
5	H29.10.28	高知大学 AP 事業シンポジウム（東京国際交流館）	3 人
6	H29.11.17	徳島大学 SIH 道場振り返りシンポジウム（徳島大学）	2 人
7	H29.11.18	AP テーマⅠ協議会（徳島大学）	3 人
8	H29.11.18	平成 29 年度 AP テーマⅠシンポジウム	3 人
9	H29.11.21	広島大学 TA 公開セミナー（広島大学）	2 人
10	H29.12.26～12.28	第 6 回大阪府大高専 AP・SP 作成ワークショップ（大阪府立大学）	2 人
11	H30.1.27	第 1 回 AP 採択 6 高専合同フォーラム（神戸市立工業高等専門学校）	1 人
12	H30.3.3～3.4	第 23 回 FD フォーラム（京都産業大学）	1 人
13	H30.3.10	共創ワークショップ（TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター）	3 人
14	H30.3.20～3.21	第 24 回大学教育研究フォーラム	5 人
15	H30.3.24	第 2 回アカデミックアドバイジングサロン（キャンパスポート大阪）	1 人

【成果と今後の課題】

調査に参加した教職員がＦＤ研修会等において具体的な成果還元を行うための仕組みづくりを進める必要がある。

（４）行動型学修の推進

教室外における能動的学修を推進するため，「行動型学修に参加する学生への経費助成に関する要領」に基づき経費助成を行った。関連資料は次のとおり。

【実施概要】

- 行動型学修に参加する学生への経費助成に関する要領（p. 29）
- 平成２９年度「行動型学修に参加する学生への経費助成」申請一覧（p. 31）

【成果と今後の課題】

平成２６年度から開始した本事業について，助成実績件数が徐々に増え（H26:3 件，H27:13 件，H28:12 件，H29:20 件），行動型学修に関する意識や，学外で実習を行う際のノウハウ，

注意点等が教員に蓄積されてきた。一方で，経費助成ありきの参加とならないよう，行動型学修に参加する学生側の授業参加への意識付けや，さらに学外での学びを促進するにあたっての安全管理強化といった，恒常的な仕組みとするための学内環境整備が求められる。

（５）参加型学修の推進

教室内におけるアクティブ・ラーニング（参加型学修）促進のため，ICT 機器の整備を行い，授業への導入を図った。

【実施概要（機器整備状況）】

	購入機器名・台数	導入場所
1	IPad Air 2(16GB,Wi-Fi モデル)・15 台	庄原キャンパスラーニングコモンズ
2	クリッカー・40 台	庄原キャンパス

【成果と今後の課題】

ＩＣＴを活用した参加型学修の環境整備が徐々に整い，ラーニング・コモンズにおける授業数が増加するなど，新しい授業スタイルへの模索が始まった。平成２９年度後期に新しいＣＡＬＬシステムが３キャンパスに整備され，多くの授業で活用されている。ＩＣＴを活用した参加型アクティブ・ラーニングの情報交換や小規模研修も積極的に行われているが，新たな学修環境をより活用する組織的な働きかけが重要となる。

平成 29 年度　担当科目におけるアクティブ・ラーニング実施状況調査

本調査は，本学におけるアクティブ・ラーニングの実施状況と課題を探ることを目的として，平成 29 年度に学士課程の開講科目を担当している教員（非常勤講師を含む）を対象として行うものです。

本学は，平成 26 年度に文部科学省「大学教育再生加速プログラム（AP)」事業（テーマⅠ：アクティブ・ラーニング）に採択され，「教育方法や授業内容の見直しによる能動的学修の定着」に取り組んでいます。多様化･複雑化する社会の中で活躍できる人材を育てるため，講義形式による知識伝達に加えて，アクティブ･ラーニング手法の積極的な実施により主体的な学修態度を涵養し，「生涯学び続ける自律的な学修者（アクティブ・ラーナー)」の育成に寄与することを目的としています。

教員の皆様におかれては，ご自身の担当授業におけるアクティブ・ラーニング手法の実施状況等について，現状をお答えくださいますようお願いします。なお，回答いただいたデータは AP 事業推進部会が責任をもって管理します。また，調査結果は，AP 事業にかかる外部評価委員会や，文部科学省等への報告に使用するとともに，AP 事業推進部会委員を通じて各学部学科・センター等に提供いたします。

以上の趣旨をご理解いただき，ご協力賜りますようお願いいたします。

お忙しいところ恐縮ですが，平成 30 年 2 月 2 日（金）17：00 までに，調査票に記入の上ご提出くださるようお願いいたします。ご不明な点がありましたら，下記担当者までお問い合わせください。

ＡＰ事業推進部会長　　馬　本　　勉

❖提出締切：　平成３０年２月２日（金）１７：００
❖提 出 先：　広島キャンパス：メール室（回収 BOX を設置）
　　庄原キャンパス：教学課　AP 担当
　　三原キャンパス：教学課　メールボックス
❖問合わせ先：　本部経営企画室　AP 事務担当　伊藤（俊）
　　電子メールアドレス　kaikaku@pu-hiroshima.ac.jp
　　電話番号　082-251-9727（内線 1230）

(((本調査におけるアクティブ・ラーニングの考え方)))

(1) ＡＰ事業では，アクティブ・ラーニングを，主に教室外で行う**行動型学修**と，主に教室内で行う**参加型学修** の２軸で捉えています。下表に掲げる各 AL 手法を，授業の特性に応じて導入し，有機的に組み合わせて実施することで，学生の学修姿勢の転換に効果的に作用すると考えています。

区分	本学が定めるアクティブ・ラーニング手法の例
行動型学修	a. フィールドワーク　b. 体験学修（現地体験，地域活動） c. 他キャンパスの教員・学生との交流を伴う学修（他キャンパスでの学修・活動） d. その他の行動型手法（実習・実技を含む）
参加型学修	e. ミニッツペーパー　f. 振り返り　g. プレゼンテーション　h. グループワーク i. ディスカッション　j. ディベート　k. ワークショップ　l. ＰＢＬ※1 m. ＴＢＬ※2　n. 双方向授業　o. 反転授業　p. その他の参加型手法（演習・実験を含む）

※1 Problem-Based Learning：問題基盤型学修／Project-Based Learning：課題解決型学習
※2 Team-Based Learning：チーム基盤型学修

(2) さらに，アクティブ･ラーニングの浸透により学生の学修姿勢を転換させるには，ある程度の量（時間数）が必要と考えます。下記に掲げる時間的基準を満たして AL 手法を導入する授業を，特に**県立広島大学型アクティブ・ラーニング（Campus Linkage Active Learning：CLAL）**と総称し，質と量を伴ったアクティブ・ラーニングを保証する本学独自の指標として定めています。

１学期における授業（90 分×15 回＝1,350 分）の中で 300 分（１講義あたり 20 分×15 回相当）を費やして，本学が定める行動型・参加型アクティブ・ラーニング手法を取り入れ実施する授業

(3) なお，本事業は，全ての授業に 300 分以上のアクティブ・ラーニング手法を導入しようとするものではありません。授業の目的や性格に鑑み，必要に応じて積極的に導入していただくことを趣旨としています。

◆担当授業におけるアクティブ・ラーニング（AL）の実施状況についてお聞きします。
回答は，下表太枠内の【問１】～【問４】の欄にそれぞれ記入してください。

【問1】 その科目が **必修科目か選択科目か** をお聞きします。該当するほうに ☑ を入れてください。
【問2】 その科目で **導入しているアクティブ･ラーニング手法** をお聞きします。
① 回答欄内の選択肢 a～p の中から，該当するもの全てに ☑ を入れてください。
② アクティブ･ラーニング手法を一切導入していない場合は，選択肢 z に ☑ を入れてください。
【問3】 問2で選択した手法を用いたアクティブ･ラーニングを **1学期に合計300分以上実施しているか** をお聞きします。該当するほうに ☑ を入れてください。
【問4】 その科目で **アクティブ･ラーニングの実施が必要だと考えているか** をお聞きします。該当するほうに ☑ を入れてください。

所　属		氏　名
○○○○学部	○○○○学科	

開講時期	開講学部	科目名	【問1】この科目は必修科目ですか。	【問2】この科目で導入しているAL手法をお聞きします。 ① 選択肢 a～p の中から，該当するもの全てに ☑ を入れてください。 ② AL手法を一切導入していない場合は，選択肢 z に ☑ を入れてください。	【問3】問2の手法を用いたALを，1学期に300分以上実施していますか。	【問4】この科目ではALの実施が必要だと考えますか。
前期	○○○○学部	○○○○論	□必修科目 □選択科目	□a. フィールドワーク　□b. 体験学修（現地体験，地域活動） □c. 他キャンパスの教員・学生との交流を伴う学修　□d. その他の行動型手法（実習・実技を含む） □e. ミニッツペーパー　□f. 振り返り　□g. プレゼンテーション □h. グループワーク　□i. ディスカッション　□j. ディベート □k. ワークショップ　□l. ＰＢＬ　□m. ＴＢＬ □n. 双方向授業　□o. 反転授業　□p. その他の参加型手法（演習・実験を含む） □z. アクティブ・ラーニング手法を一切導入していない。	□300分以上 □300分未満	□必要である □あまり必要でない □必要でない
			□必修科目 □選択科目	□a. フィールドワーク　□b. 体験学修（現地体験，地域活動） □c. 他キャンパスの教員・学生との交流を伴う学修　□d. その他の行動型手法（実習・実技を含む） □e. ミニッツペーパー　□f. 振り返り　□g. プレゼンテーション □h. グループワーク　□i. ディスカッション　□j. ディベート □k. ワークショップ　□l. ＰＢＬ　□m. ＴＢＬ □n. 双方向授業　□o. 反転授業　□p. その他の参加型手法（演習・実験を含む） □z. アクティブ・ラーニング手法を一切導入していない。	□300分以上 □300分未満	□必要である □あまり必要でない □必要でない
			□必修科目 □選択科目	□a. フィールドワーク　□b. 体験学修（現地体験，地域活動） □c. 他キャンパスの教員・学生との交流を伴う学修　□d. その他の行動型手法（実習・実技を含む） □e. ミニッツペーパー　□f. 振り返り　□g. プレゼンテーション □h. グループワーク　□i. ディスカッション　□j. ディベート □k. ワークショップ　□l. ＰＢＬ　□m. ＴＢＬ □n. 双方向授業　□o. 反転授業　□p. その他の参加型手法（演習・実験を含む） □z. アクティブ・ラーニング手法を一切導入していない。	□300分以上 □300分未満	□必要である □あまり必要でない □必要でない
			□必修科目 □選択科目	□a. フィールドワーク　□b. 体験学修（現地体験，地域活動） □c. 他キャンパスの教員・学生との交流を伴う学修　□d. その他の行動型手法（実習・実技を含む） □e. ミニッツペーパー　□f. 振り返り　□g. プレゼンテーション □h. グループワーク　□i. ディスカッション　□j. ディベート □k. ワークショップ　□l. ＰＢＬ　□m. ＴＢＬ □n. 双方向授業　□o. 反転授業　□p. その他の参加型手法（演習・実験を含む） □z. アクティブ・ラーニング手法を一切導入していない。	□300分以上 □300分未満	□必要である □あまり必要でない □必要でない

ご協力ありがとうございました。
引き続き「アクティブ・ラーニングの実施に係る意識調査」も併せてご回答ください。

平成29年度　担当科目におけるアクティブ･ラーニング実施状況調査　結果

平成３０年３月７日

1　調査期間　平成30年1月22日（月）～2月2日（金）

2　対象科目　総科目数　1269科目
（当該年度開講科目のうち，卒業論文・研究，履修者０人の科目を除く）

3　対 象 者　対象科目を担当する常勤および非常勤の教員　302名
（複数人が担当する科目は，代表担当者に回答を依頼）

4　調査方法　①常勤教員：各キャンパスで配付・回収
②非常勤教員：調査票を手交もしくは郵送し，返信用封筒にて回答を依頼ｓ。

5　回 収 率　70.5％（213人／302人）

【所属別回答率】

所　属	調査対象(人)	回答数(人)	回答率
人間文化学部　国際文化学科	24	22	91.7%
人間文化学部　健康科学科	12	9	75.0%
経営情報学部　経営学科	13	8	61.5%
経営情報学部　経営情報学科	15	9	60.0%
生命環境学部　生命科学科	31	22	71.0%
生命環境学部　環境科学科	16	13	81.3%
保健福祉学部　看護学科	21	16	76.2%
保健福祉学部　理学療法学科	12	10	83.3%
保健福祉学部　作業療法学科	14	10	71.4%
保健福祉学部　コミュニケーション障害学科	14	11	78.6%
保健福祉学部　人間福祉学科	20	16	80.0%
センター(総合教育・学術情報・地域連携・国際交流)特任教授	10	7	70.0%
非常勤講師	100	60	60.0%
合　計	302	213	70.5%

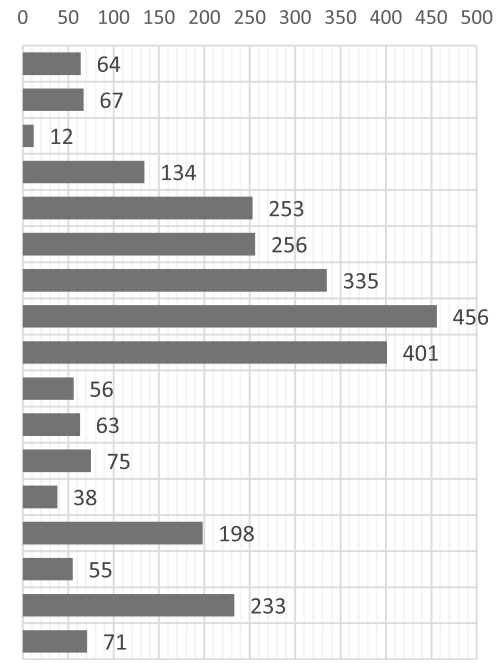
6　調査結果

【問１】
その科目が**必修科目か選択科目か**をお聞きします。該当するほうに☑を入れてください。

必修科目　439 科目
選択科目　476 科目　　（計　915 科目）

【問２】
その科目で**導入しているアクティブ・ラーニング手法**をお聞きします。
①　回答欄内の選択肢　ａ～ｐ　の中から，該当するもの全てに☑を入れてください。
②　アクティブ・ラーニング手法を一切導入していない場合は，選択肢ｚに☑を入れてください。

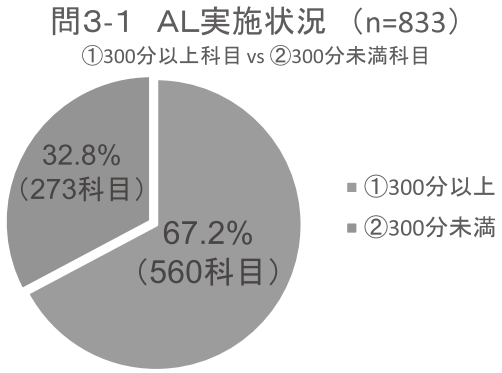
手法	件数
ａ．フィールドワーク	64
ｂ．体験学修（現地体験・地域活動）	67
ｃ．他キャンパスの教員・学生との交流を伴う学修	12
ｄ．その他行動型学修（実習・実技を含む）	134
ｅ．ミニッツペーパー	253
ｆ．振り返り	256
ｇ．プレゼンテーション	335
ｈ．グループワーク	456
ｉ．ディスカッション	401
ｊ．ディベート	56
ｋ．ワークショップ	63
ｌ．ＰＢＬ	75
ｍ．ＴＢＬ	38
ｎ．双方向授業	198
ｏ．反転授業	55
ｐ．その他の参加型手法（演習・実験を含む）	233
ｚ．アクティブ・ラーニング手法を一切導入していない。	71

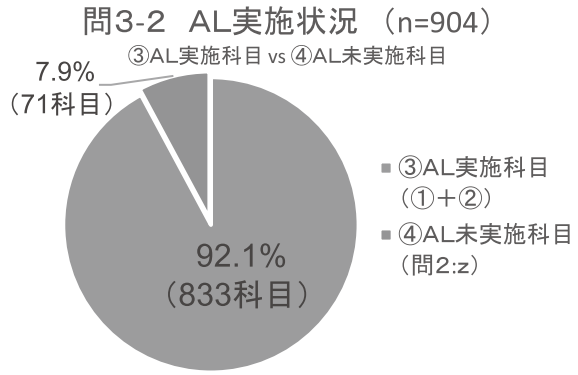


【問３】
問２で選択した手法を用いたアクティブ・ラーニングを**１学期に合計３００分以上実施しているか**をお聞きします。　該当するほうに☑を入れてください。

①300分以上　560 科目
②300分未満　273 科目

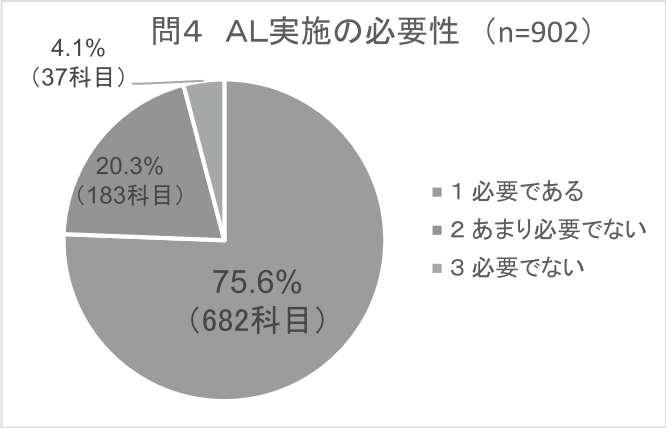
③ＡＬ実施科目（①＋②）　833 科目
④ＡＬ未実施科目（問２：ｚ）　71 科目
回答科目のうちのＡＬ実施率　92.1 ％





【問４】
その科目で<u>アクティブ・ラーニングの実施が必要だと考えているか</u>をお聞きします。 該当するほうに☑を入れてください。

1	必要である	682 科目
2	あまり必要でない	183 科目
3	必要でない	37 科目



◆ 担当科目におけるＡＬ実施状況と教員意識（ＡＬ実施の必要性）の関係

上段：回答数 下段：割合		その科目におけるＡＬの必要性（問４）			合計
		必要である	あまり必要でない	必要でない	
ＡＬ実施状況	300分以上（問３）	516	36	1	553
		93.3%	6.5%	0.2%	100%
	300分未満（問３）	160	94	17	271
		59.0%	34.7%	6.3%	100%
	未導入（問２：ｚ）	6	42	19	67
		9.0%	62.7%	28.4%	100%
合計		676	130	18	824

平成 29 年度　アクティブ・ラーニングの実施に係る意識調査

この調査は，本学 AP 事業で推進するアクティブ・ラーニングの実施に係る教員の意識を把握し，現状と課題を探ることを目的として，平成 29 年度において学士課程の開講科目を担当している教員（非常勤講師を含む）を対象として行うものです。

並行して回答を依頼している「平成 29 年度　担当科目におけるアクティブ・ラーニング実施状況調査」（以下「実施状況調査」とする。）では，担当科目毎にアクティブ・ラーニング実施状況を把握することを趣旨としていますが，この調査はアクティブ・ラーニング実施に対する教員一人ひとりの意見を伺うことに目的としています。

ご回答いただいた調査結果は，「実施状況調査」と同様に，AP 事業推進部会が責任をもって管理し，アクティブ・ラーニングの推進や AP 評価委員会への報告等に活用いたします。

以上の趣旨をご理解いただき，ご協力賜りますようお願いいたします。

お忙しいところ恐縮ですが，平成 30 年 2 月 2 日（金）17:00 までにご回答くださるようお願いいたします。

ＡＰ事業推進部会長　　馬　本　　勉

❖提出締切：　平成３０年２月２日（金）１７：００
❖提 出 先：　広島キャンパス：メール室（回収 BOX を設置）
庄原キャンパス：教学課　AP 担当
三原キャンパス：教学課　メールボックス
❖問合わせ先：　本部経営企画室　AP 事務担当　伊藤（俊）
電子メールアドレス　kaikaku@pu-hiroshima.ac.jp
電話番号　082-251-9727（内線 1230）

◆ 最初に，あなた自身（回答者）についてお訪ねします。

年　齢 （当てはまるものに☑を入れてください）	□２０代　□３０代　□４０代 □５０代　□６０代　□７０代～	大学教員経験年数 （当てはまるものに☑を入れてください。）	□１～５年　□６～１０年 □１１～１５年　□１５～２０年 □２１～２５年　□２６～３０年 □３１年以上
専門分野 （近いものに☑を入れてください）	□文学　□教育学　□神学　□社会学　□教養学　□学芸学　□社会科学　□法学 □政治学　□経済学　□商学　□経営学　□理学　□医学　□歯学　□薬学 □看護学　□保健衛生学　□鍼灸学　□栄養学　□工学　□芸術工学　□商船学　□農学 □獣医学　□水産学　□家政学　□芸術学　□体育学　□その他（　　学）		
所　属 （当てはまるものに☑を入れてください）	□１　人間文化学部　国際文化学科　□２　人間文化学部　健康科学科 □３　経営情報学部　経営学科　□４　経営情報学部　経営情報学科 □５　生命環境学部　生命科学科　□６　生命環境学部　環境科学科 □７　保健福祉学部　看護学科　□８　保健福祉学部　理学療法学科 □９　保健福祉学部　作業療法学科　□10　保健福祉学部　コミュニケーション障害学科 □11　保健福祉学部　人間福祉学科 □12　センター（総合教育，学術情報，地域連携，国際交流，宮島学） □13　非常勤講師		

問１．アクティブ・ラーニングの実施状況を教えてください。

平成 29 年度の担当科目でアクティブ・ラーニング手法を導入している授業はありますか。当てはまる数字に☑を入れてください。なお，実施している時間数に関係なくお答えください。

□ １　全ての授業で実施している。　→ 問２および問４をお答えください。
□ ２　一部の授業で実施している。　→ 問２，問３および問４をお答えください。
□ ３　全ての授業で実施していない。　→ 問３および問４をお答えください。

問２．問１で「１」または「２」と答えた方にお聞きします。

［ア］　アクティブ・ラーニング手法を導入している授業について，アクティブ・ラーニングが学生の学修へ与える効果をどのように感じていますか。当てはまるものに ☑を入れてください。

項　目	１ そう思う	２ どちらとも言えない	３ そう思わない
A 学修内容の理解の促進	□１ そう思う	□２ どちらとも言えない	□３ そう思わない
B 授業への積極的参加の促進	□１ そう思う	□２ どちらとも言えない	□３ そう思わない
C 質問の増加	□１ そう思う	□２ どちらとも言えない	□３ そう思わない
D 授業外学修時間の増加	□１ そう思う	□２ どちらとも言えない	□３ そう思わない
E 課題の質向上（レポート等）	□１ そう思う	□２ どちらとも言えない	□３ そう思わない
F 遅刻・早退・欠席の減少	□１ そう思う	□２ どちらとも言えない	□３ そう思わない
G 私語の減少	□１ そう思う	□２ どちらとも言えない	□３ そう思わない
H 居眠りの減少	□１ そう思う	□２ どちらとも言えない	□３ そう思わない

［イ］　その他，感じている効果等があれば具体的にお聞かせください。

問３．問１で「２」または「３」と答えた方にお聞きします。

［ア］　アクティブ・ラーニングを実施していない授業について，当てはまる理由に ☑を入れてください。

項　目	１ そう思う	２ どちらとも言えない	３ そう思わない
A 授業の内容上導入が難しい	□１ そう思う	□２ どちらとも言えない	□３ そう思わない
B 大人数の授業であるため	□１ そう思う	□２ どちらとも言えない	□３ そう思わない
C 事前・事後の作業時間が増える	□１ そう思う	□２ どちらとも言えない	□３ そう思わない
D 講義に充てる時間が減る	□１ そう思う	□２ どちらとも言えない	□３ そう思わない
E 教育効果があると思わない	□１ そう思う	□２ どちらとも言えない	□３ そう思わない
F 周囲も導入していない	□１ そう思う	□２ どちらとも言えない	□３ そう思わない
G 手法がわからない	□１ そう思う	□２ どちらとも言えない	□３ そう思わない
H 面倒である	□１ そう思う	□２ どちらとも言えない	□３ そう思わない
I なんとなく	□１ そう思う	□２ どちらとも言えない	□３ そう思わない

［イ］　その他の理由があれば自由にお聞かせください。

問４．全ての方にお聞きします。

［ア］　平成 30 年度の授業におけるアクティブ・ラーニング手法の導入予定について，当てはまるものに ☑を入れてください。（複数回答可）

□１ 行動型アクティブ・ラーニング手法を引き続き実施する。
□２ 参加型アクティブ・ラーニング手法を引き続き実施する。
□３ 複合型アクティブ・ラーニング手法(※)を引き続き実施する。
□４ 行動型アクティブ・ラーニング手法を新規に導入する。
□５ 参加型アクティブ・ラーニング手法を新規に導入する。
□６ 複合型アクティブ・ラーニング手法(※)を新規に導入する。
□７ いずれも実施を検討していない。

（※ 同一授業の中で，行動型・参加型アクティブ・ラーニング手法を組み合わせて実施する形態）

（参考）本学が定めるアクティブ・ラーニング手法の例

行動型 （主に教室外）	a．フィールドワーク　b．体験学修（現地体験，地域活動） c．他キャンパスの教員・学生との交流を伴う学修（他キャンパスでの学修・活動） d．その他の行動型手法（実習・実技を含む）
参加型 （主に教室内）	e．ミニッツペーパー　f．振り返り　g．プレゼンテーション h．グループワーク　i．ディスカッション　j．ディベート k．ワークショップ　l．ＰＢＬ※1　m．ＴＢＬ※2 n．双方向授業　o．反転授業 p．その他の参加型手法（演習・実験を含む）

※1 Problem-Based Learning：問題基盤型学修／Project-Based Learning：課題解決型学習
※2 Team-Based Learning：チーム基盤型学修

［イ］　［ア］の回答理由を具体的にお聞かせください。

［ウ］　アクティブ・ラーニングを実施するための支援について，必要だと思うものに ☑を入れてください。（複数回等可）

□１ FDer 養成講座を含む学内研修の充実
□２ 行動型学修への経費助成
□３ ラーニングコモンズ等の学修環境整備
□４ ICT 機器・環境の整備
□５ 外部セミナー等の情報提供
□６ 外部セミナー等への参加に係る経費助成
□７ 学修支援アドバイザー制度の充実
□８ その他　具体的に：

ご協力ありがとうございました。

平成29年度 アクティブ・ラーニングの実施に係る意識調査 結果

平成３０年３月７日

１ 調査期間 平成30年1月22日（月）～2月2日（金）

２ 調査対象 平成29年度開講科目を担当する常勤及び非常勤の教員 302名

３ 調査方法 ①常勤教員：各キャンパスで配付・回収
②非常勤教員：調査票を手交もしくは郵送し，返信用封筒にて回答を依頼ｓ。

４ 回 収 率 66.9%（211人／302人）

【所属別回答数】

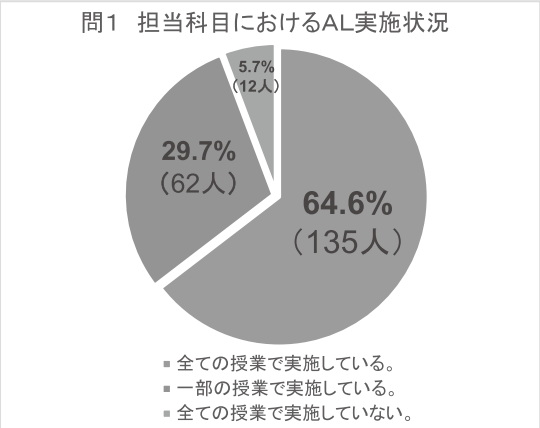
所 属	回答数(人)
人間文化学部 国際文化学科	27
人間文化学部 健康科学科	9
経営情報学部 経営学科	7
経営情報学部 経営情報学科	10
生命環境学部 生命科学科	21
生命環境学部 環境科学科	11
保健福祉学部 看護学科	17
保健福祉学部 理学療法学科	9
保健福祉学部 作業療法学科	9
保健福祉学部 コミュニケーション障害学科	12
保健福祉学部 人間福祉学科	16
センター(総合教育・学術情報・地域連携・国際交流)特任教授	11
非常勤講師	51
未記入	1
合 計	211

６ 調査結果

【問１】

平成29年度の担当科目でアクティブ・ラーニング手法を導入している授業はありますか。当てはまる数字に☑を入れてください。**なお，実施している時間数に関係なくお答えください。**

	回答数	割合
全ての授業で実施している。	135	64.6%
一部の授業で実施している。	62	29.7%
全ての授業で実施していない。	12	5.7%
合 計	209	100%



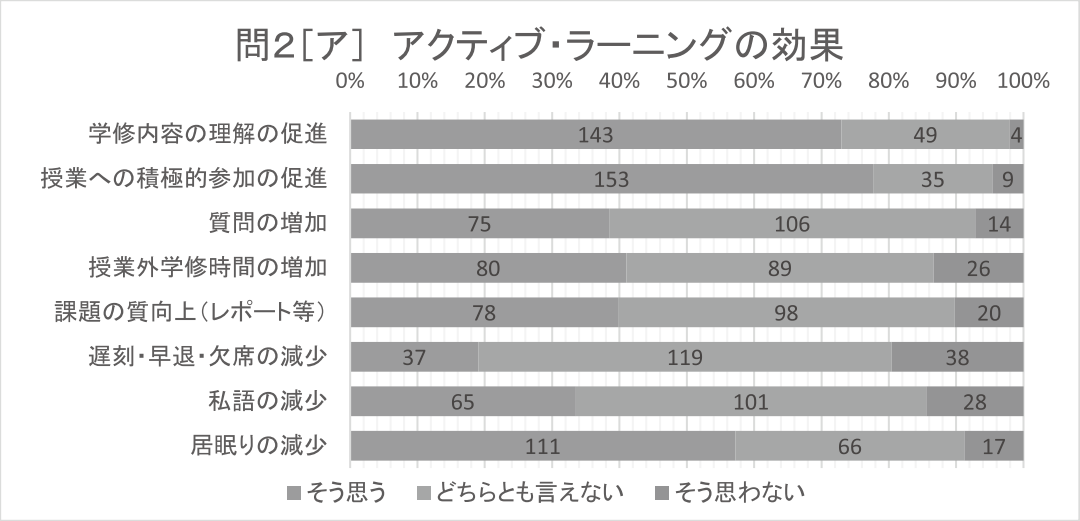
【問２】

問１で「１」または「２」と答えた方にお聞きします。

［ア］アクティブ・ラーニングの実施による，学生の学修に対する効果をどのように感じていますか。当てはまる欄に〇を入れてください。

上段：割合／下段：回答数

	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	合計
A 学修内容の理解の促進	73.0% (143)	25.0% (49)	2.0% (4)	100% (196)
B 授業への積極的参加の促進	77.7% (153)	17.8% (35)	4.6% (9)	100% (197)
C 質問の増加	38.5% (75)	54.4% (106)	7.2% (14)	100% (195)
D 授業外学修時間の増加	41.0% (80)	45.6% (89)	13.3% (26)	100% (195)
E 課題の質向上（レポート等）	39.8% (78)	50.0% (98)	10.2% (20)	100% (196)
F 遅刻・早退・欠席の減少	19.1% (37)	61.3% (119)	19.6% (38)	100% (194)
G 私語の減少	33.5% (65)	52.1% (101)	14.4% (28)	100% (194)
H 居眠りの減少	57.2% (111)	34.0% (66)	8.8% (17)	100% (194)



［イ］その他，感じている効果等があれば具体的にお聞かせください。（回答抜粋）

- グループワークにおいて，普段話をしない学生と同じグループになることで，勉学上の触発を受けることもあるようである。
- グループで調査研究の練習をさせている。最初は必ず失敗するが，それが研究を行う上で良い効果を及ぼすと考えている。
- 授業の理解度の確認，他の学生の視点を知る。
- 学生の課題が可視化され，共有，交流によって解消への道筋につながる
- 事前に予習をしっかりして授業に臨むことで，授業時間を効率よく使うことができると思います。私の場合語学の授業でこの点はとても重要と考えています。
- 学生自身の気付きや発見につながる場合，より学習効果が上がったと感じる。
- 学生が授業で楽しんで受講してくれている。
- 認定されているタスクが学生の関心や希望とかに合えばきわめて良好な反応につながる。教材，方法，意識付けなどがポイントになると思う。
- 授業外学習が増える。
- 省察的思考の促進につながり，専門職の思考過程を体験的に理解することにつながる効果を期待できる。
- 答え（正解）が一つではない場合のものの見方，考え方が身に付けやすくなる。

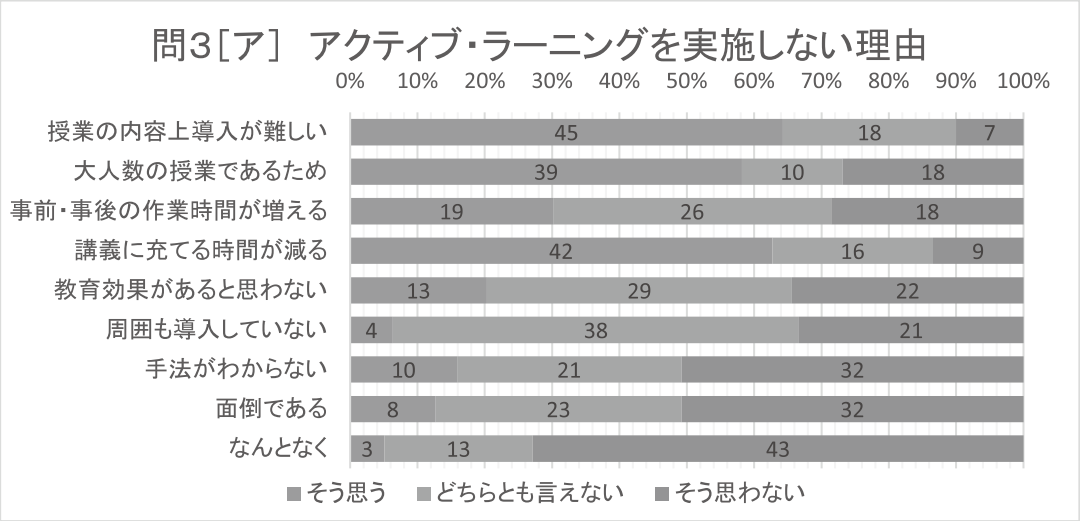
【問３】

問１で「２」または「３」と答えた方にお聞きします。

［ア］アクティブ・ラーニングを実施していない授業について，当てはまる理由に☑を入れてください。

上段：割合／下段：回答数

	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	合計
A 授業の内容上導入が難しい	64.3% (45)	25.7% (18)	10.0% (7)	100% (70)
B 大人数の授業であるため	58.2% (39)	14.9% (10)	26.9% (18)	100% (67)
C 事前・事後の作業時間が増える	30.2% (19)	41.3% (26)	28.6% (18)	100% (63)
D 講義に充てる時間が減る	62.7% (42)	23.9% (16)	13.4% (9)	100% (67)
E 教育効果があると思わない	20.3% (13)	45.3% (29)	34.4% (22)	100% (64)
F 周囲も導入していない	6.3% (4)	60.3% (38)	33.3% (21)	100% (63)
G 手法がわからない	0.0% (10)	33.3% (21)	50.8% (32)	100% (63)
H 面倒である	12.7% (8)	36.5% (23)	50.8% (32)	100% (63)
I なんとなく	5.1% (3)	22.0% (13)	72.9% (43)	100% (59)



［イ］その他の理由があれば自由にお聞かせください。（回答抜粋）

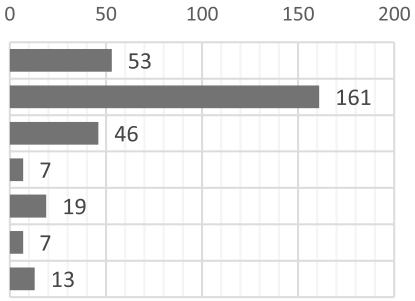
- 知識の量が増えていくのか怪しい。
- 国家試験対策が必要で，しかし国家試験に出なくても大事な問題はある上に，社会に出て（企業，病院などに入って）知っておくと役に立つ知識も提供したいと考えているので，90分×15回の授業では足りない。アクティブ・ラーニングに費やす余裕はあまりない。
- 本分野における受講者の既知，既習の内容が乏しく知識・技術の習得（教免レベル）とその応用・発展力を1350分で養うことのむずかしさを感じている。
- オムニバスで担当している場合は，限られた時間に，決まった内容を説明しないといけいないので，実施がむずかしい。
- 一度過去に，授業外学修にグループワークを取り入れたことがあったが，評判が良くなかったのでもうやめようと思った。三原の専門科目の中には必然的に昔からアクティブ・ラーニング的手法で行われている授業が多くあり，私の担当科目までグループワークとなると，そのような活動を授業外で行うような時間を取れないと学生たちは困っていた。すべてがアクティブ・ラーニングである必要もないと考えて，やめた。

【問４】

全ての方にお聞きします。

［ア］平成30年度の授業におけるアクティブ・ラーニング手法の導入予定について，当てはまるものに☑を入れてください。（複数回答可）

手法	件数
行動型アクティブ・ラーニング手法を引き続き実施する。	53
参加型アクティブ・ラーニング手法を引き続き実施する。	161
複合型アクティブ・ラーニング手法(※)を引き続き実施する。	46
行動型アクティブ・ラーニング手法を新規に導入する。	7
参加型アクティブ・ラーニング手法を新規に導入する。	19
複合型アクティブ・ラーニング手法(※)を新規に導入する。	7
いずれも実施を検討していない。	13



［イ］［ア］の回答理由を具体的にお聞かせください。（回答抜粋）

①アクティブ・ラーニングを「引き続き実施する」と回答した教員の意見

- 効果の程はわからないが，求められているから。
- 試行錯誤を重ねながら，学生の主体的学修に少しずつ良い変化を認めつつあるので，今後も継続的に実施する。
- 体験学修を含めたフィールドワークは，講義内容を確認したり，また講義に向けて疑問点を見つけておくなど，受講生の能動的な授業への取組に欠かせない。ミニッツペーパー等を使っての振り返りは，受講生自身がその授業にどういう態度で取り組んでいるかを考える契機になる。
- 学生が主体を起こし講義内容に自ら参加し，思考することによって，授業内容を理解し，習得してほしいから。
- 授業改善の効果を実感している。
- 現状通りで特に問題ないから。
- 特に止める理由がない。
- 実践現場にでた時（実習）で活かせると感じるから体験学修を増やしたいと感じている。
- 実習科目では行動型アクティブ・ラーニングを継続することになる。ミニッツペーパーは大人数の授業では欠かせないコミュニケーションツールである。
- 実習関連の科目を主に担当しているので，アクティブ・ラーニング手法の導入・実施は当然のことと考えている。
- 学生が一方的な講義よりも考える力がつくから。また講義内容をどこまで理解できているかを確認できるから。
- I will contine doing what I do, adapting my methods basad on the response & feedback of my students.
- 学生の問題意識及び課題理解促進のため重要だと思う。非常勤必修科目のため，行動型実施は難しい。
- 自己学修時間が増え，その効果を感じている。グループワークの場合，個別の指導をどのように行うか悩むところである。（参加が不十分な学生に対し）
- 医療における実学領域は，臨床実習や卒後の臨床実践を考えると，学内でのアクティブ・ラーニングは必要不可欠であるから。

②アクティブ・ラーニングを「新規に導入する」と回答した教員の意見

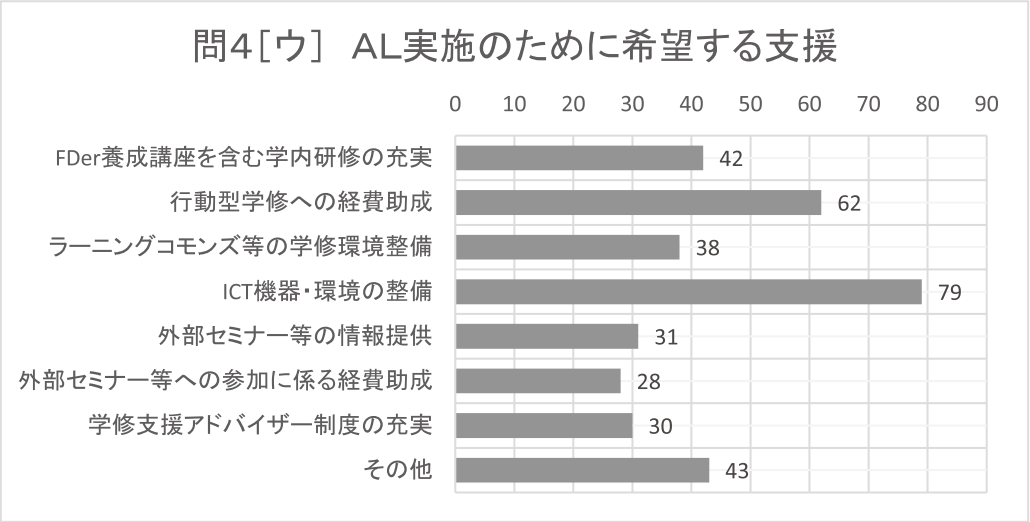
- 実際に現地体験することにより，学生の問題意識が強く喚起されるのではないかと考えるから。
- 少しずつでも導入すべきだと思う。
- これまで取り入れていない手法も取り入れてみたいと考えています。
- 学生実験や演習ではこれまでと同様に参加型手法を用いた授業を行い，座学については，レポートや授業中の確認問題など自主学習の機会を増やす予定です。
- 学力，自主的に学習する力の低下に伴い，よりアクティブ・ラーニングが必要であると考えるため。さらに積極的に取り入れる工夫をしていきたいと思っています。

③「いずれも実施を検討していない」と回答した教員の理由

- 基礎基本，専門知識なしに，例えばフィールドワーク，ディスカッション，ディベートなどをしても結局，小学生～高校生の体験の延長のみ。推進のブームに乗らないこそが，アクティブなラーニングであると考えている。
- ALに適した科目とそうでない科目があるので，全ての科目にALを取り入れる必要はない。
- アクティブ・ラーニング手法について知識が乏しい。大人数の授業では困難に思える。

［ウ］アクティブ・ラーニングを実施するための支援について，必要だと思うものに☑を入れてください。（複数回等可）

支援内容	件数
FDer養成講座を含む学内研修の充実	42
行動型学修への経費助成	62
ラーニングコモンズ等の学修環境整備	38
ICT機器・環境の整備	79
外部セミナー等の情報提供	31
外部セミナー等への参加に係る経費助成	28
学修支援アドバイザー制度の充実	30
その他	43



■ 選択肢「その他」の自由記述（抜粋）

- 教室の整備が必要不可欠。グループワークに適した机ではない。
- 対話しやすい机の配置（例えば円形，自由に動かせる机）のある教室の充実。
- 小人数（20～30人）程度の授業等の実施，固定イス・机の廃止，移動可能型のテーブルつきのイスの導入。
- ３キャンパスの学生が相互にスムーズなコミュニケーションを取れるよう，wi-Fiを設置する。学生がもっと自由に出入りできる（ラーニングコモンズより自由度の高い）自習室の整備（基本図書やPCも含めて）。
- 早く，キャンパス全体にfreeのLAN（WAN）を。
- 無線LANを早期に導入し，全ての教室でいつでも使える環境整備を急いで頂きたいと思います。
- 参加型学修の経費助成（小道具，ボードなど）
- 経費助成の手続きの簡略化。行動型学修を行っているが研究費からの持出しが増えるので，やるほど貧乏になり困っている。
- 外部から専門家（臨床実務家）を招へいする経費を助成して欲しい。現在も一部，教学経費で助けていただいているが不十分で，個人研究費から支出することも多いため。
- 制度設計上の（例えば担当コマ数や受講者数のコントロールなど，カリキュラム設計，授業設計上の）工夫が必要。学生もcap制の上限まで履修すれば，受け身のままで負担の少ない授業を織りまぜながら受講するしかないのが現状かと思われる。
- 導入するにあたり，それが学生にとって有効か，問題ないかなどを相談できる環境。初めて導入するときは不安です。行動型学修以外にも，参加型の学修で様々な消耗品（付箋，模造紙，ペン，小さいホワイトボードetc）の経費を助成してほしい。あるいは借りれるようにしてほしい。学修支援アドバイザーの具体的な使い方がわからない。
- 必要な教材作成，授業方法についての支援を行う教員（スタッフ），機材が必要。
- 授業教材（プリント）のコピーを手伝ってくれるスタッフ。90人×２クラスでは準備に時間がかかります。
- 教員の数がすくなく，効果的なフィードバックが行えていない気がするので，ティーチング・アシスタントなどが活用しやすくなるといい。（学修支援アドバイザーでは能力的に不十分。）
- アクティブ・ラーニングと質保証を連動させる取り組みをやるべきです。
- 反転授業のノウハウ等を非常勤講師にも伝えて欲しい。

授業参観シート

学 部・学 科		授業者氏名	
授業実施日時	平成 29 年　　月　　日(　　) 第（　　）限		
授　業　名		参観者氏名	

観点	具体例	評価	気付き
準備	ア　授業を受ける準備ができている。	3－2－1	
反応	イ　授業における発問や指示に対して積極的に反応している。	3－2－1	
思考・表現	ウ　授業中の記録に自分の考えを書いている。	3－2－1	
省察	エ　授業の振り返りに授業前との比較が記されている。	3－2－1	
協働	オ　対話的な学びで新たな発見をしている。	3－2－1	
社会性	カ　集団の中の役割を考えた言動がある。	3－2－1	

全体を通しての所見

※　観点は「学士力」も可。(1 知識・理解　2 汎用的技能　3 態度・志向　4 総合的学習経験等)

行動型学修に参加する学生への経費助成に関する要領

平成２７年６月２４日
ＡＰ事業推進部会

１　趣旨

県立広島大学型アクティブ・ラーニングの導入を促進するため，行動型学修（地域活動を組み込んだ教室外学修：例えばフィールドワークや学外実習，及びその成果発表会など）に参加する学生の移動に係る経費の助成を行う。

２　助成対象経費等について

助成対象経費は，予算の範囲内において，行動型学修に係る本学学生の交通費を助成する。

（１）助成内容

借上バス等を利用する場合，駐車場代，高速道路利用料金を含めて必要経費を助成する。

ただし，バスを借り上げるよりも経済的かつ合理的な理由がある場合のみ，公共交通機関の料金を助成する。

（２）経費算定の際の注意事項

・本要領に係る経費の支出は，証拠書類（領収書，支払証明書等）で確認できるもののみを対象とする。
・移動に係る経費の算定について，原則として，集合時から解散時までの事業実施中において発生する交通費等は大学が負担し，集合前と解散後の交通費等は学生が負担する。
・交通手段や交通経路については，効率的かつ経済的なものを選択する。
・やむなく公共交通機関等を利用する場合，学生旅客運賃割引が使用できる場合は必ず使用すること。また，指定席料金については支出しない。
・安全性を考慮し，自家用車での移動に係る経費は支出しない。

３　助成条件

次の条件を全て満たしたものについて助成する。

（１）全学共通教育科目または専門科目におけるフィールドワークや学外実習，及びその成果発表会など，教室外での学びを新たに取り入れる，または，従来の取り組みを加速・改善させるもの であり，学生の学修意欲，自主性を引き出すものであること。

（２）正課授業科目の中で行う活動である，または，正課授業科目における教育方法の見直しと充実化を図るための試行的な活動であること。

（３）活動の内容について，行先または講師等選定の理由が合理的かつ経済的であり，相応の教育効果があると見込まれる活動であること。

なお，次の内容については助成対象としない。

・資格取得のみを目的とした学外実習，ゼミ，卒業論文及び卒業研究にかかるもの。
・クラブ，サークル活動など，正課授業と直接的に関わりのないもの。
・本学内における別事業または，実習先等から交通費（一部を含む）等が助成されるもの。
・その他，申請書類（支出証拠書類を含む）の内容が不明瞭であるもの。

４　申請方法と助成可否の決定

（１）行動型学修を計画する教員は，原則として事業開始日の３週間前までに，学科長または全学共通教育部門長（以下「学科長等」という。）の確認を経て，別記様式１「学外実習等実施計画書」（以下，「計画書」という。）と必要経費に係る根拠資料を添えて，各キャンパス教学課を通じ，AP 事業推進部会長（以下「部会長」という。）へ提出する。

（２）部会長は，提出された計画書について，ＡＰ事業推進部会（以下「部会」という。）における協議を踏まえて助成の可否を審議・決定し，申請教員に対してその結果を速やかに通知する。

（３）行動型学修を実施した教員は，実施後速やかに，学科長等の確認を経て，別記様式２「学外実習等実施報告書」（以下，「報告書」という。）及び別記様式３「支払証明書」を，各キャンパス教学課を通じ，部会長に提出する。

（４）部会長は，報告書及び支払証明書に基づき，部会における協議を踏まえて助成額を審議・決定し，申請教員に対して速やかに通知する。

（５）報告書の内容について，計画時の実習行程から変更があった場合は，変更にかかる経費を助成しない場合がある。

ただし，次の条件に該当する行程変更については，この限りでない。

・実習の目的に鑑みて，計画時の行程より一層の高い教育効果が見込まれると判断した場合に実施するもの。

・交通事故等により発生した渋滞の回避など，やむを得ない事情によるもの。

・その他，軽微なもの。

５　支払に係る手続き

本要領に係る庶務は，本部経営企画室おいて行う。本部経営企画室は，決定した助成額を学生に支払う場合は，原則として口座払いによって処理することとし，学生は，必要に応じて「口座振替依頼書」を提出することとする。

６　その他

この要領に定めるもののほか，必要な事項は，部会長が定める

附　則

この要領は，平成２７年６月２４日から施行し，平成２７年４月１日以降，文部科学省「大学教育再生加速プログラム」補助事業実施期間中において適用する。

附　則

この要領は，平成２８年６月８日から施行する。

平成２９年度「行動型学修に参加する学生への経費助成」実績一覧

（期間：平成２９年４月～平成３０年２月）

	科目名	申請教員	科目区分	助成対象	実施日
1	異文化としての日本	柳川　順子 五條小枝子	全学共通科目	2 人	4 月 22 日
2	教養ゼミナール （異文化理解）	鈴木　康之	全学共通科目	10 人	6 月 17 日
3	食品衛生学実験	谷本　昌太	専門科目 （健康科学科）	39 人	6 月 15 日
4	異文化としての日本	柳川　順子 五條小枝子	全学共通科目	21 人	7 月 15 日
5	ボランティア活動	手島　洋	全学共通科目	27 人	6 月 10 日 6 月 17 日 9 月 7 日
6	社会言語学	小川　俊輔	専門科目 （国際文化学科）	40 人	7 月 1 日
7	教養ゼミナール （異文化理解）	小川　俊輔	全学共通科目	10 人	7 月 6 日
8	ライフデザイン	岡田　高嘉	全学共通科目	12 人	8 月 9 日～10 日 8 月 21 日～23 日
9	プログラミング 情報システム論	宇野　健 折本　寿子	専門科目 （経営情報学科）	46 人	7 月 6 日
10	体育実技Ⅱ （山寺）	塩川　満久	全学共通科目	44 人	8 月 21～23 日 8 月 23～25 日 8 月 30 日～9 月 1 日
11	地域情報発信論	五條小枝子 馬本　　勉 塩川　満久	全学共通科目	34 人	8 月 31 日～9 月 5 日
12	国際協力論演習	植村　広美	専門科目 （国際文化学科）	23 人	10 月 16 日～2 月 5 日
13	留学生と学ぶ広島	柳川　順子 五條小枝子	全学共通科目	64 人	10 月 8 日
14	フィールド科学	福永　健二	専門科目 （生命環境学部）	157 人	11 月 29 日 ～12 月 12 日
15	留学生と学ぶ広島	柳川　順子 五條小枝子	全学共通科目	64 人	11 月 18 日
16	健康教育プログラム論	森脇　弘子	専門科目 （健康科学科）	9 人	11 月 29 日
17	健康教育プログラム論	森脇　弘子	専門科目 （健康科学科）	9 人	12 月 14 日
18	留学生と学ぶ広島	柳川　順子 五條小枝子	全学共通科目	64 人	12 月 16 日
19	留学生と学ぶ広島	柳川　順子 五條小枝子	全学共通科目	64 人	1 月 20 日
20	地域の理解	五條小枝子	全学共通科目	59 人	2 月 6 日

平成29年度県立広島大学　教育改革フォーラム

ALer育成の課題と展望～高大接続時代を迎えて～
FDer役割別取組・成果報告

グループ１　「組織的教育改善」

○荻田　信二郎　生命環境学部　生命科学科
細羽竜也　保健福祉学部　人間福祉学科
谷本昌太　人間文化学部　健康科学科

- 本学AP事業は，「地域に軸足を置き，世界を視野に活躍できる人材」の育成拠点として，本学が掲げる全学人材育成目標を実現するために全学で取り組んでいる教育改革のうち，授業方法の見直し・改善と教育方法の充実・転換を目指したアクティブ・ラーニングの導入を加速することで，学生の学修意欲を喚起し，主体性を育む教育（ALer育成）を定着させることを目的としています。

【http://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/ap/】

平成28年度から「高大接続改革推進事業」と位置付けられたことを受け，広島県内の高校で進んでいる「学びの変革」と円滑に接続するため，様々なイベントによる協働を模索しています（AP事業推進部会ニュース第4号より）。

■「組織的教育改善」の根幹（抜粋）

➢全学人材育成目標：

県立広島大学は，主体的に考え，課題解決に向けて行動できる実践力と豊かなコミュニケーション能力を備え，幅広い教養と高度な専門性に基づいて，高い志とたゆまぬ向上心をもって地域や国際社会で活躍できる人材を育成します。

【http://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/47/jinzai.html】

➢教育課程編成・実施の方針（学士課程CPより）：

【知識・技能】
【思考力・判断力・表現力】＝論理的，創造的な思考を促し，課題発見・解決力，表現力，行動力を身につける能動的な学修方法（対話や討論を重視した参加型学修）を導入する。
【主体性・協働性】地域をフィールドとし，主体性や社会貢献への意欲とともに，実践力を育む能動的な学修方法（地域や海外での活動を含む行動型学修）を導入する。

【http://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/47/policy.html】

■「組織的教育改善」の報告内容

➢CPの点検評価に係るツールや枠組み:

【http://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/47/policy.html】

➢CLAL導入に係る意識調査の活用:

導入状況調査では，担当科目毎にCLALの導入状況を把握することを趣旨としていますが，意識調査はCLALの導入に対する教員一人ひとりの意見を伺うことに主眼を置いています。

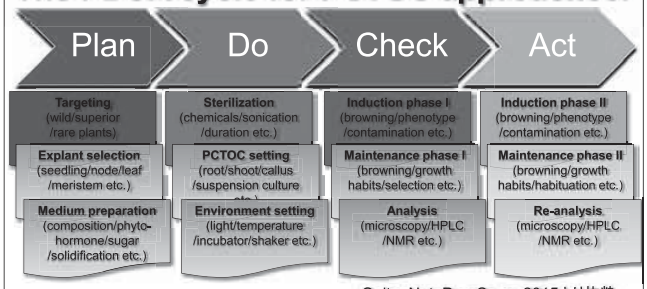
【http://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/ap/report26-27.html】

➢カリキュラムポリシー（CP）の実効性:

各部局（学部・学科等）CPに「○○○」すべきポイント。

【 http://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/47/policy.html 】

The PDCA cycle for PCTOC approaches.



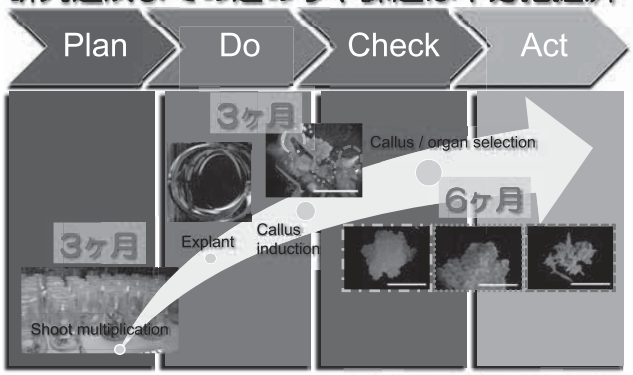
Ogita, Nat. Pro. Com., 2015より抜粋

➢例示（AL実践の場である研究教育）には:

極めて重要な視点「目標設定＋エフォート率」が詰まっている。

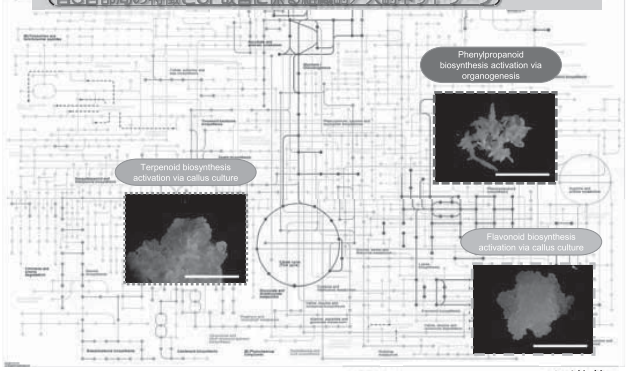
【 https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/01_seido/05_faq/answer.html】

研究達成までの道のりや課題は十分把握済



Ogita, Nat. Pro. Com., 2015より抜粋

機能分化した有用細胞の選択　生物の代謝経路ネットワークの把握と活用
（各C各部局の特徴とCP改善に係る組織的／人的ネットワーク）



Ogita, Nat. Pro. Com., 2015より抜粋

各C各部局でCPの文言（およびAP、DP）と目指す人材像に多様性がある
⇒今回の取組みを通じた各C各部局の枠を超えて教育を議論
（人的ネットワークとコアになる枠組み構築の足がかりを得た）

■「組織的教育改善」の報告内容

取りまとめに際して留意をお願いした点（抜粋）

- ✓ CP（親CPと部局CPの関係）の適切な記述方法あるいはイメージを提案？
- ✓ 学生や受験生視点で分かりやすく，もう少し共通且つ適切な分量の記述（あるいは解説）について意見がまとまらないか？
- ✓ 学生が自律的な学修に勤しむよう設計されているか？　etc…

➢CPの点検評価に係るツール:（三原Cの検討事例）

●参考文献：ベネッセ報告書　大学生の主体的な学習を促すカリキュラムに関する調査報告書「チェックリスト」

視点　⇒　FDer視点で最もCLALの実践に資する項目をピックアップし，ALを介したCPであることの検証を行う。

「カリキュラム改革チェックリスト」のうち，『視点３　「主体的な学び」を促進するカリキュラムをどう設計すべきか』の中の「▶主体的な学修を促進するプログラムのカリュラムへの組み込みについて」及び「 ▶主体的な学修を促進するプログラムの実施について」の項目でCLALの実践に資する評価を実施する。

（1）主体的な学修を促進するプログラムのカリキュラムへの組み込みについて

- 1年次の学生に対する導入教育として，主体的な学修を促進するプログラムがある。
- 1年次の学生に対する導入教育として，基礎学力低下に対応したプログラムがある。
- 導入教育以後の主体性や意欲低下を食い止めるためのプログラムがある。
- 2年次以後の学生に対して，主体的な学修を促進するプログラムがある。
- 主体的な学修を促すプログラムは，企業など学外の意見を反映して設計している。
- 主体的な学修を促すプログラムにおける経験（体験・実習等）は，知識と関連づけられている。
- 主体的な学修を促すプログラムにおける経験（体験・実習等）は，振り返りと関連づけられている。
- 主体的な学修を促進する準正課教育や正課外教育の機会を設定している。

（2）主体的な学修を促進するプログラムの実施について

- 主体的な学修を促すプログラムを組織的に実施している（教員個人の取り組みになっていない）。
- 主体的な学修を促すプログラムは複数の教員がかかわり設計・実施している。
- 主体的な学修を促すプログラムの学修効果を測定・評価している。

検証　⇒　上記11項目について三原Cの学修内容と照らし合わせてみると，

11項目すべてをクリアしていた。

- ✓ カリキュラムはALを念頭に置いて作成されていることになるが，適切なのか。
- ✓ 部局CPはALを想定した文言になっていないのか。

⇒　CLAL調査の記述をもとに教員1人ひとりの声を検証し，ALを意識したCPの記述の必要性，ならびに教育体制整備と改善　すなわち「CPの実効性」を提案する。

➢CLAL導入に係る意識調査の活用:

●参考文献：平成28年度CLAL意識調査　集計結果（本学：平成29年1月23日（月）～2月3日（金））

調査対象	平成28年度開講科目を担当する常勤および非常勤の教員　312名
調査方法	①常勤教員：各キャンパスで配付・回収 ②非常勤教員：調査票を郵送し，返信用封筒にて返送を依頼
回収率	69.2%（216人／312人）

視点　⇒　数字には表れにくい教員1人ひとりの声から教育・研究意識を高めるための「ヒント」を探る。意識の共有と醸成がCPやカリキュラム実践には不可欠である（FD活動の日常化：FDerが特別な訳ではない）

- ✓ CLALを導入していない理由について
- ✓ CLAL導入予定・選択した理由について
- ✓ CLALの効果について
- ✓ CLAL導入に必要な支援について

➢CLAL導入に係る意識調査の活用:

【CLALを導入しない理由】		42
大項目1		
その他		3
CLAL周知不足		1
インセンティブ不足		1
学生負担		1
学生への配慮		1
科目目的優先		1
カリキュラムの課題		2
効果不明		1
準備時間不足		2
条件未達		10
知識習得優先		16
導入検討		3

【CLAL導入予定・選択の理由】		152
導入予定	大項目	
行動型導入	科目の必要性	2
行動型導入	効果期待	8
行動型導入	導入不可能	1
行動型導入	予定記述	9
参加型導入	—	1
参加型導入	CLAL周知の要請	1
参加型導入	科目の必要性	3
参加型導入	効果期待	26
参加型導入	実行しやすさ	13
参加型導入	導入不可能	1
参加型導入	予定記述	28
導入せず	—	10
導入せず	科目の必要性	2
導入せず	効果が期待できない	5
導入せず	準備時間不足	4
導入せず	大人数のため	1
導入せず	知識取得優先	6
導入せず	要検討	1
導入せず	予定記述	5
複合型導入検討	—	1
複合型導入検討	効果期待	12
複合型導入検討	実行しやすさ	3
複合型導入検討	予定記述	9

- ✓ 事前準備に相当の時間がかかる。
- ✓ プレゼンテーションを行ってもらう場合，他の講義でもプレゼンを取り入れられているので，学生への負担が大きすぎる。
- ✓ 300分は超えていないが，それぞれ考えさせる時間やレポートの提出をさせている。質が重要ではないか。
- ✓ 基礎知識や考え方をスライドや時に現物を用いてしっかりと身につけさせるのが優先ではないか。

➢CLAL導入に係る意識調査の活用:

【アクティブラーニングの効果】		57
大項目	中項目1	
特になし		4
肯定	学生の把握	1
肯定	興味・関心	8
肯定	主体性	5
肯定	相互作用	5
肯定	理解深化・拡大	5
やや肯定	学生の把握	1
やや肯定	主体性	1
やや肯定	保留	1
やや肯定	レベル維持	1
状況説明	すでに導入	14
状況説明	保留	2
やや否定	限定的効果	6
否定	作業負担	1
否定	知識習得	1
否定	保留	1

【CLAL導入のために必要な支援】		49
大項目	中項目	
特になし		5
教育環境の整備	教育経費	2
教育環境の整備	人的資源	7
教育環境の整備	物理的環境	9
その他	教育組織での対応	3
その他	業務負担の軽減	7
その他	受講生の限定	3
推進体制の整備・改善	CLAL周知不足	7
推進体制の整備・改善	インセンティブ	2
推進体制の整備・改善	その他	4

- ✓ 全ての授業ではなく，効果の認められる授業を選択する（選択のコツや，指定教科を設ける）
- ✓ 関連科目間の連携。
- ✓ 教員が研究（教材づくりを含む）の時間を十分もてるようにすること）
- ✓ 推進していく教員・組織の作成
- ✓ 効果の適正な評価とそれに基づく教員へのインセンティブの付与

➢意識調査結果の小括／CPの実効性確保のために:

ALの効果として，興味・関心，主体性，相互作用の活性化，理解深化・拡大など様々な特徴が取り上げられた。
⇒　各部局におけるCP記述に際して，留意すべき内容として精査する。

CLALを導入しない理由には，「300分」という時間に達しないなどの条件未達や知識習得を優先するというスタンス，準備時間不足やカリキュラム設定上の問題，学生負担などが挙がった。
⇒　これらの改善のためには，CLALを用いた授業に取り組むための，科目間の連携や役割分担など教員間の協議や人材育成目標の合意などが必要か？

CLAL導入のためには「効果が期待できる状況設定」と「実行しやすさ」が鍵となる。
⇒　科目目的を教育組織内で整理し，どのような授業内容にするか一歩踏み込んで協議できる体制づくりが必要か？

教員のエフォートに関わる内容として「業務負担の軽減」が複数挙げられた。
その他，教育環境の整備や推進体制の整備・改善が求められた。
⇒　CLALを効果的に導入するために，教育体制の見直し・改善を提案できる仕組みを教育組織に持っておく必要がある。

11項目すべてをクリアしていた。

- ✓ カリキュラムはALを念頭に置いて作成されていることになるが，適切なのか。
- ✓ 部局CPはALを想定した文言になっていないのか。

⇒　CLAL調査の記述をもとに教員1人ひとりの声を検証し，ALを意識したCPの記述の必要性，ならびに教育体制整備と改善　すなわち「CPの実効性」を提案する。

➢CPの実効性:（三原Cの検討事例から提案）

●参考文献：ベネッセ報告書P40-41：「主体的な学び」を促進するカリキュラム・デザイン　大阪大学　佐藤浩章

視点　⇒　CPの記述にALを介した人材育成であることを明瞭に示すこと

⇒目標設計・スコープ（領域）の設定・シーケンス（順序）の設定を部局CP共通のルールとして設定してはどうか？

①目標設計の適切性の評価

「カリキュラム改革チェックリスト」のうち，『視点３　「主体的な学び」を促進するカリキュラムをどう設計すべきか』の中の「▶カリキュラム（科目構成）について」の項目のうち，以下の3項目で評価する。

◎「カリキュラム上の到達目標と，授業上の到達目標との関連性がチェックされており，カリキュラムマップ等でそれらが可視化されている。
◎到達目標への各授業の寄与度（ウェイト）がわかるようになっている。
◎各科目においては客観的に評価できる到達目標を設定している。

➢CPの実効性:（三原Cの検討事例から提案）

②スコープ（領域：学修経験の範囲の設定）の適切性の評価

「カリキュラム改革チェックリスト」のうち，『視点３　「主体的な学び」を促進するカリキュラムをどう設計すべきか』の中の「▶カリキュラム（科目構成）について」の項目のうち，以下の3項目で評価する。

◎到達目標の達成という点で，カリキュラムのスコープ（領域・内容）は適切であり，工夫がある。
◎学生の学習の動機づけという点で，カリキュラムのスコープ（領域・内容）は適切であり，工夫がある。
◎科目間で教育内容の重複や漏れがないように配慮している。

③シーケンス（ナンバリング：学修経験の配列）の適切性の評価

「カリキュラム改革チェックリスト」のうち，『視点３　「主体的な学び」を促進するカリキュラムをどう設計すべきか』の中の「▶カリキュラム（科目構成）について」の項目のうち，以下の2項目で評価する。

◎到達目標の達成という点で，カリキュラムのシーケンス（順序・系統性）は適切であり，工夫がある。
◎学生の発達段階に即した順序という点で，カリキュラムのシーケンス（順序・系統性）は適切であり，工夫がある。

（３）ファカルティ・ディベロッパー（ＦＤｅｒ）の養成

平成２９年度は前年度同様，５回のFDer養成講座を開催した。第１回（６月２１日）は組織的な教育改革について，第２回（６月２８日～７月４日）は授業を参観する視点について，いずれも中等教育に長年携わった講師による講座を実施した。第３回（９月１４日）は，FDer 個々の実践をポスター形式で発表する会とし，相互に授業改善についての意見交換を行った。第４回（９月２１日）は，前年度までにティーチング・ポートフォリオを作成した教員が集い，その更新のためのワークショップを開催した。第５回（１月２４日）は，広島県高等学校教育研究・実践合同発表会と兼ねて実施し，各学科，全学共通教育，宮島学に関する組織的な教育改善について発表した。

以上のように，様々な機会をとらえてFDerのスキルアップを図ることとあわせて，FDer 個々の目標を明確にする「FDer 自己評価ルーブリック」を試行し，本学が目指すFDer像の共有に努めた。

資　料

（３）－１　第１回ＦＤｅｒ養成講座　チラシ，次第，意見・感想一覧

（３）－２　第２回ＦＤｅｒ養成講座　資料，意見・感想一覧

（３）－３　第３回ＦＤｅｒ養成講座　チラシ，資料，意見・感想一覧

（３）－４　第４回ＦＤｅｒ養成講座　資料

（３）－５　ＦＤｅｒ自己評価ルーブリック（試行版）

（３）－６　取組まとめ（教育改革フォーラム　FDerグループ２報告資料）

■ファカルティ・ディベロッパー（ＦＤｅｒ）の養成について

＜前年度評価委員会における指摘事項（抜粋）＞

・ＦＤｅｒ活動の評価と併せた教員負担の軽減
・一部ＦＤｅｒから全ＦＤｅｒへの意識共有，波及手段の検討
・ＦＤｅｒとしての成長目標や段階指標の明確化
・ＦＤｅｒに発言力，実行力をつけるための組織的な支援
・ＦＤｅｒ養成講座の参加者増，ハード面での工夫

＜平成２９年度事業推進計画＞

● ＦＤｅｒ養成プログラム「実践編」を実施し，学内教職員のＦＤｅｒへの理解をさらに深めるとともに，これまでの「入門編」「応用編」で学んだ内容を自身の授業や他者へのアドバイスへ活かせるよう，より実践的な講座を展開することで，ＦＤｅｒのさらなる養成に努める。
● ＦＤｅｒは，ＦＤ研修会等において発表者やコーディネーターの役割を担い，事業推進の牽引役をつとめる。

＜平成２９年度事業推進状況＞

（１）平成２９年度ＦＤｅｒ養成講座の実施

前年度に引き続きＦＤｅｒ養成を行うため，平成２９年度ＦＤｅｒ養成プログラム（実践編）として養成講座を計５回実施した。実施概要は下記のとおり。

【実施概要】

回	日　時	会　場	概　要
1	平成 29 年 6 月 21 日(水) 13:00～14:30	発信 広島Ｃ 広島 2143 講義室 庄原 大講義室 三原 4101 講義室	【テーマ】 学びの変革を支える学校づくり 【ねらい】 学生の 6 割が広島県出身者である本学において，県内中等教育において行われている「学びの変革」アクションプランの概要を理解する。 【講　師】 榊原　恒雄　　氏 （県立広島大学 理事） （広島県教育委員会理事／ 前広島県立中学校・広島高等学校校長） 【参加人数】 87 名（広島 43，庄原 16，三原 28） 【参加者感想】 p. 40「第 1 回 FDer 養成講座　意見・感想一覧」
2	平成 29 年 6 月 28 日(水) 6 月 30 日(金) 7 月 4 日(火)	各キャンパスの 教室で実施	【テーマ】 ピアレビューを通じた授業力向上 【ねらい】 ピアレビューを行うにあたっての授業の「見方」を学ぶ。 【講　師】 門戸　千幸　　教授 （総合教育センター） 【参加人数】 35 名（広島 14，庄原 7，三原 14） 【参加者感想】 p. 43「第 2 回 FDer 養成講座　意見・感想一覧」

3	平成 29 年 9 月 14 日(木) 14:00～16:15	広島 2455 講義室 2451 講義室	【テーマ】 FDer 実践報告会（ポスターセッション） 【ねらい】 他教員及び他学科の授業改善に関する実践報告をポスター発表形式で行い，互いの取り組みを知ることで個々の授業等の改善に繋げる。 【発表者】 県立広島大学 FDer 【参加人数】 59 名（広島 38，庄原 9，三原 12） 【参加者感想】 p. 49「第 3 回 FDer 養成講座　意見・感想一覧」
4	平成 29 年 9 月 21 日(木) 9:30～	三原 会議室	【テーマ】 第 1 回ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ（三原キャンパス FDer 主催） 【ねらい】 ポートフォリオの作成を行うことで，教育者としての振り返りに繋げる。 【講　師】 北野　健一　　氏 （大阪府立大学工業高等専門学校　教授） 【参加人数】 12 名
5	平成 30 年 1 月 24 日(水) 9:30～16:30	サテライトキャンパスひろしま	【テーマ】 平成 29 年度広島県高等学校教育研究・実践合同発表会 ※第 5 回 FDer 養成講座として実施 【ねらい】 高等学校の教育実践例を学び，本学の教育改革推進及び個々の授業改善を図ると共に，本学の教育・授業実践事例について高等学校教員へ広く周知することで，今後の高大接続のあり方を探る。 【参加人数】 本学教職員：41 名／高等学校関係者：199 名 【参加者感想】 p. 94「第 5 回 FDer 養成講座　意見・感想一覧」

【成果と今後の課題】

平成２９年度は，（１）学内他教員や他学科の授業や取組みを知る，（２）高等学校までの学びの内容を知るという２つのテーマを柱としてＦＤｅｒ養成講座を実施した。どちらのテーマも，「普段見ることができない他教員の授業内容を具体的に知ることができ，自らの授業の振り返りに繋がった」といった前向きな感想が非常に多く見られ，「学びの質」に対する教員の意識向上に繋がった。次年度以降は，ＦＤｅｒの実践力をさらに高める講座と併せて，学科内でのカリキュラムへの提言力を強め，実質的なカリキュラムへの提言者として養成する学内の仕組みづくりと併せて，ＦＤｅｒが積極的にＦＤを企画する機会を増やすことが課題である。

（２）－１　ＦＤｅｒ連絡調整ワーキンググループの立ち上げ

ＦＤｅｒ間の連携を進化させ，組織的な教育改善を推進するため，新たにＦＤｅｒ４９名から成る連絡調整ワーキンググループ（ＦＤｅｒWG）を組織し，下記のとおり協議を行った。

＜平成２９年度ＦＤｅｒ連絡調整ＷＧの実施状況＞

回 数	日 時	議 題
第１回 全体会	平成 29 年 6 月 20 日（火） 9:15～	【協議事項】 1　FDerWG の役割について 2　平成 29 年度の取組事項について
第２回 グループ長 会議	平成 29 年 12 月 1 日（金） 9:15～	【協議事項】 1　平成 29 年度における各ワーキンググループの活動状況報告及び目標設定・共有 2　平成 29 年度教育改革フォーラムの発表について

※この他，キャンパス毎の個別協議を随時実施。

（2）－2　ＦＤｅｒ役割別グループの配置

ＦＤｅｒの自主性・機動性を高めるため，ＦＤｅｒ全員で４つの役割を分担し，それぞれにキャンパス別のリーダーを配置し，キャンパス毎の役割及び活動の集約を行った。また，３キャンパスを跨いだグループ別のリーダーには課題を共有し，ＡＰ事業推進部会において進捗状況を報告し，活動状況を共有しあうことでキャンパス間の距離を縮め，学内全体としての意識化に努めた。

【ＦＤｅｒ役割別グループ名簿】

◎全体統括　　門戸　千幸（ＦＤｅｒ連絡調整ＷＧ座長），馬本　勉（ＡＰ事業推進部会長）
　　柳瀬　幸成（経営企画室長）

	広島	庄原	三原
総括	丸山　浩明 中山　雅子（教学課長）	原田　浩幸 石田　学（教学課長）	細羽　竜也 横山　千衣（教学課長）
１．組織的教育改善	谷本　昌太◎ 柳川　順子 粟島　浩二 小川　仁士	荻田　信二郎★ 小林　謙介	細羽　竜也◎ 本岡　直子 川原田　淳
２．ＡＬ実践と普及	原田　淳◎ 森脇　弘子 和田　崇 足立　洋 市村　匠 肖　業貴 重安　哲也 五條　小枝子	荻田　信二郎◎ 楠堀　誠司 藤井　宣彰 藤田　景子	飯田　忠行★ 黒田　寿美恵 古山　千佳子 細川　淳嗣 江本　純子 手島　洋
３．学修成果の把握	小川　仁士★ 西本　寮子 小川　俊輔 広谷　大助 岡田　高嘉	三苫　好治◎ 入船　浩平	金子　努◎ 山中　道代 井上　誠 塩川　満久 吉川　ひろみ
４．学修支援アドバイザーとの協働	丸山　浩明◎ 平野　実 岡本　弘道 杉山　寿美 冨田　哲治 中山　雅子（教学課長） 篠原　達児（学術情報課長）	原田　浩幸◎ 石田　学（教学課長） 越智　直子（教学係長）	細羽　竜也★ 岡田　麻里 佐藤　勇太 山西　葉子 吉田　倫子 横山　千衣（教学課長）

◎･･･キャンパスリーダー
★･･･グループリーダー

【成果と今後の課題】

これまではＡＰ事業推進部会のみにおいて意思決定及び連絡事項の周知等を行ってきたため，ＡＰ事業推進部会員から個々のＦＤｅｒ教員への情報伝達が難しい場合があった。今年度からＦＤｅｒ全員を構成員とするWGを組織することで，キャンパス毎の縦の繋がりと共に，キャンパス間の横のつながりへの意識が醸成され，情報共有が行い易くなった。加えて，役割グループ別に分けることで目標・進捗管理が行い易くなった。今後，事業推進の牽引役としてのＦＤｅｒの活動の場を整えることで，ＦＤｅｒ全体の意識向上に繋げる必要がある。

（３）ＦＤｅｒ自己評価ルーブリックの開発と自己評価

【実施概要】

ＦＤｅｒ全員が，p. 59「ＦＤｅｒ自己評価ルーブリック」を用いてＦＤｅｒとしての自らの力について振り返りを行った。

また，ルーブリックの内容そのものについても改善の余地がないかどうか，意見集約を同時に行った。

（４）ＦＤｅｒによる「アクティブ・ラーニング実践」事例集の作成

【実施概要】

これまでに学内で実践されたＡＬ実践例や改善例を学内で共有し，ＣＬＡＬの推進に繋げるため，ＦＤｅｒを中心とした事例集の作成に取り掛かった。

【成果と今後の課題】

年度毎にＦＤｅｒの数が増加しているのに比例して，活動の機会も徐々に増えてきている。

（１）ＦＤｅｒを４つのグループに分けてマネジメントサイクルを実施し，事業の進捗管理を丁寧に行いながら推進したこと

（２）ＦＤｅｒによる授業評価力を向上させる研修を行い，学生の状況を把握することで教員の授業改善のきっかけにしたこと

（３）学修支援アドバイザーによる学生の授業支援を推進し，県大学生のアクティブ・ラーナーとしての自覚につなげたこと，

（４）高大接続に関して，授業参観シートを活用して授業参観し，中等教育の現状を把握することで，大学授業とのつながりを認識した授業改善につなげたこと

このような改善は，ＦＤｅｒの日々の地道な努力によるものである。今後は，自立したＦＤｅｒとしてのあり方･完成形の明確化や，そのためにどのような力を養成していくべきか，事業終了を見据えてさらに精緻化していく必要がある。

Acceleration Program
大学教育再生加速プログラム

平成29年度
第1回FDer養成講座・第1回全学FD研修会

＿学びの変革を支える＿
学校づくり

◆ 日　時

平成 29 年
6 月 21 日（水）13:00～14:30

◆ 会　場

広島キャンパス　2143大講義室（遠隔発信）
庄原キャンパス　大講義室
三原キャンパス　4101講義室

◆ プログラム

13:00　開会挨拶　中村　健一　学長
13:05　趣旨説明　馬本　勉　AP事業推進部会長
13:10　講演
県立広島大学　榊原　恒雄　理事
（広島県教育委員会理事
前広島県立広島中学校・広島高等学校校長）
14:25　閉会挨拶　西本　寮子　副学長

主催：県立広島大学AP事業推進部会
（本部経営企画室内）
TEL 082-251-9727（直通）

県立広島大学
Prefectural University of Hiroshima

資料1

学びの変革を支える学校づくり

平成 29 年 6 月 21 日
広島県教育委員会
理事　榊原　恒雄

○　はじめに

○　グローバル教育について

○　授業指導力の向上について

○　組織的な運営について

○　おわりに

第１回ＦＤｅｒ養成講座　意見・感想一覧

No.	意 見 ・ 感 想
1	授業の改善に対する取り組みは参考になります。大学では，教育と研究の両立はあり，大きく異なりますが，教育に使える時間の中で改善に取り組まれた経験を準備できると思います。
2	「システム化していないと次の段階に行かない」というのはごもっともだと思った。本学もそれに習うべきだ。カリキュラムマップも具体的で良かった。
3	教師のあり方が良く理解できた。大学の教員のあり方は今でも答えが出ていない。学生を基本に考えることは共感できる。
4	高等教育の場でも活用できそうな発想を教えられた。
5	・管理職としての役割など参考になりました。 ・組織としての取り組みの重要性には共感部分もあるが，大学と中高の教員の職能の違いもあり，大学での状況になじまない点もあったように思います。
6	講義をオープンにすることは大切だとは理解している。それを組織的にどう取り組むか具体的な例が少ない。それを能動的に自分で考えろということだと思うが，本FD会のテーマに対する情報提供という意味では，全体的に弱い。高校と大学では変えなければならないものがある。
7	あくまでも，広島県内のホンの一部のtoplevelでの事象であり，現実的には困難校を含む大多数には該当しないと思われます。最優先されるべき事項は入口である入学生の質（人間性・学力等）を，ある程度高い level に保つ必要がある，ということだと結論付けられるのではないでしょうか。では本大学では，それが実践可能なのか？
8	・ABCD（※）について ・他の先生の授業を見ることは，本学でも今後より推進することになっているのでOPENにしていきたい。

※榊原理事が広島中学校・広島高等学校で９年間生徒へ伝え続けてきたこと。

A：当たり前のことを　B：馬鹿にしないで　C：ちゃんとやることが　D：できる人

一方，グローバルリーダーとなる生徒には次が求められる。

A：Accountability（行動に責任を持つ）　B：Bond（絆・思いやり）　C：Career（生涯学び続ける）　D：Diversity（多様性を理解し，受け入れる）

平成２９年度　第２回ＦＤｅｒ養成講座

時　平成 29 年6月 28 日(水)
所　広島キャンパス
所属学部・科　　名前

テーマ　「授業の見方について考える」

演習　1

演習を行った感想をお書きください。

演習　2

あなたの気付きをお書きください。	他者の気付きを加えてみましょう。

ここまでの内容から省察してみましょう。

意見・感想があればお書きください。

平成２９年度　第２回ＦＤｅｒ養成講座について

テーマ：　ピアレビューを通じた授業力向上

ねらい：　授業展開力・観察力・評価力を身につける
　　互いに高め合う研修の手法を学ぶ

対　象：　FDer 教員

日時・場所：　各キャンパスで調整
　　広島：　６月２８日（水）午後で調整中
　　庄原：　６月３０日（金）１～３限で調整中
　　三原：　７月　４日（火）で調整中

内　容：　授業を見る視点，見られる視点（授業公開のポイントについて）

講　師：　門戸 千幸 教授（総合教育センター）

・各 FDer は，前期中（夏期休暇中の集中講義を含む）に少なくとも１回の授業を公開するとともに，他の FDer の授業を１回参観することを努力目標としてください。

・FDer の公開授業は，一般教員の参観も可とします。

・授業公開者は，別紙１の「授業参観シート」を参観教員に配付し，授業後にフィードバックを得てください。授業者と参観者との間で協議の時間が持てれば理想的です。

・「授業参観シート」を用いた授業公開のポイントについて，上記の通り，門戸教授による FDer 養成講座を各キャンパスで開催します。

・別紙２の「授業公開予定表」に必要事項を記入し，７月５日（水）17:00 までにメールに添付してご回答ください。

提出先：　経営企画室　伊藤　俊
s-itou13039@pu-hiroshima.ac.jp

第２回ＦＤｅｒ養成講座　意見・感想一覧

・1 時間 30 分があっという間でした。FD とは充実した内容でした。テンポがよく構成されていたので自分の授業にも自分が今日集中して取り組むような内容にしたいです。ありがとうございました。
・高校生までの学び(教科書等)は知りたいです。
・自分の授業を省察し、見直すとても良い機会を頂きました。学生とともに学ぶ姿勢を持ちたいと思います。
・いろいろと参考になりました。学生を積極的に話し合わせるというところでの工夫をしたいと思っています。
・ここ最近授業の見直しについて講習を受けてきたが、これまでの態度を改める必要を痛切に感じました。改善していきます。
・学ぶ方法、指導する方法など大変参考になりました。ありがとうございます。
・豊かな心、特に非認知の部分が今後重要かと思います。非常に難しいですがここの部分の察し方を知りたい。
・とても分かりやすい説明ありがとうございました。本ワークシートは持ち帰りできるものだと思っていました。今後最終的に提出する際は予め教示していただくと幸いです。
・内容も時間も丁寧にオーガナイズされていたる教育の専門家だと思った。
・エピソードの連結、広がりと収束、評価について。
・ＦＤｅｒだけが聞くのではなく、全員が聴いた方がよいと思いました。
・授業の目標をしっかり提示して行いたいと思った。
・自らの普段の仕事についてよく考えることができました。
・課題は一緒にやっていく先生たちに知識のシャワーから思考をきたえることにどうやってシフトしてもらうかずっと悩んでいます。今日の講座を他の先生にも聞いてもらいたい。
・自らの授業を振り返る契機となり良かった。今後、継続してこのような学ぶ場があると良い。
・ＦＤｅｒ対象ではなく広く前もって講座を広報し、多くの方に聞いていただけるようにした方がよいと考えます。ありがとうございました。
・学校、大学をめぐる環境の変化はめまぐるしいが、学生の目線に立つということで整理ができるように思った。
・大学の教員は教育者としての視点で採用された人は少なく、ほとんどが研究者です。よって「授業」ではなく「講義」という感覚でいます。まず、このマインドを変えなければ根本的な改革にならないような気がします。本日は教育者として目覚めた方に向けた内容と感じられました。
・ＦＤｅｒの連携が深まっていく大変良い機会となりました。ありがとうございました。

・いつも悩むのですが、15 回いつもアクティブ・ラーニングを行うと学生がダレてしまって(飽きる)学習効果が下がる気がします。また、積極的に参加する子はいいのですが消極的な子に参加を促す場合にいつも困ります。
・事前学習(学修)にもう少し力を入れてみようかと思いました。
・授業の見方について大変参考になりました。
・取り入れる部分もありますので今後生かしていきたいと思います。
・途中からでしたがとても役に立ちました。ありがとうございました。
・知識の量を減らさずに知識の質を深く豊かにすることはかなり困難であろう。対話がすべてでもない悩ましい。
・学生にとって授業がなければ学修が進まないならアクティブラーナーになっているとは言えないのではないか。社会に出たら授業など受けないのだから。
・中等教育と高等教育の在り方の違いとそれを踏まえた授業のあり方はどうあるべきかなどへの気付きが知りたい。
・実験のため遅れました。すいませんでした。
・ピアレビューが専門性を評価されそうで嫌でしたが、学生の学修状況を見る、見られるのであればそれほど嫌でもないかな。ありがとうございました。
・上で主体的と書いたのですが、理解してもらうために演習を取り入れています。ただ、一部の授業でやさしすぎる→すぐにできる→騒がしくなる。難しすぎる→分からない→騒がしくなる。となり、難しい状況になっています。どのようにすればよいのでしょうか。演習はあまり効果がないのでしょうか。
・科目によって自分の意見の発信、ディスカッションに必要な事前準備に要する時間に大きなばらつきがある。
・最初のノーマン・ロックウェルの絵画、深い意味があるのに気付かず申し訳ありませんでした。生徒(学生)の様子をつぶさに見るように心がけたいと思います。本日は誠にありがとうございました。
・授業参観の視点については気づかない点も多く、参考になった。
・「見る心構え、見てもらう心構え」前に進むことができたように思います。ありがとうございました。

平成29年度

第3回FDer養成講座

＜テーマ＞

FDer実践報告会

（ポスターセッション）

一趣　旨一

本学FDerによるアクティブ・ラーニング実践や組織的教育改善の事例報告（ポスター発表）を通じた，全学的なアクティブ・ラーニングの普及を目的としています。この事例報告と，教職員や学修支援アドバイザー（学生）との意見交換を通じて，FDerの技能・意欲とともに，全学的な教育力の向上を図ります。

日　時	会　場
平成29年 9月14日（木） 14:00～16:15	広島キャンパス ■ 2455 講義室（開閉会行事，集合場所） ■ 2451 講義室（ポスターセッション）

プログラム

14:00～14:10	挨拶，趣旨説明	（2455 講義室）
14:15～15:00	第１グループ発表	（2451 講義室）
15:00～15:15	休　憩	
15:15～16:00	第２グループ発表	（2451 講義室）
16:00～16:15	総括，閉会挨拶	（2455 講義室）
16:30～17:30	教職員学生交流会	（食堂）

※情報交換会へ参加する教職員の方からは，会費500円を頂戴します。

担当・問い合わせ先
本部経営企画室　川口・伊藤（俊）
TEL　082-251-9727（内線 1230）
E-mail　kaikaku@pu-hiroshima.ac.jp

県立広島大学
Prefectural University of Hiroshima

第３回 FDer 養成講座　ポスター発表要領

【ポスターの掲示・撤去について】

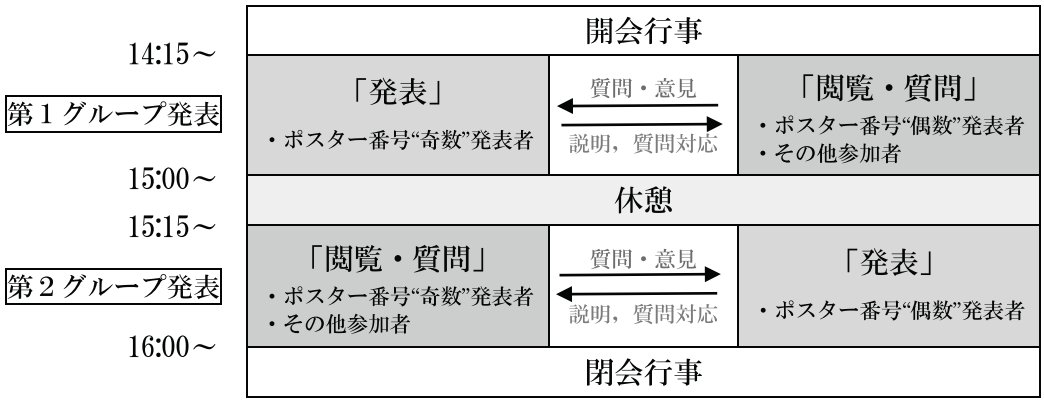
○ポスターの掲示・撤去は事務局で行いますので，事前・事後の作業は不要です。

○撤去後のポスターは，本部経営企画室で保管します。

【ポスターセッションについて】

○全報告者を２グループに分けます。グループ分けは，発表タイトル一覧をご覧ください。（ポスター番号　奇数：第１グループ，偶数：第２グループ）

○まず，第１グループの発表（45 分）を行います。休憩を挟み，「発表」と「閲覧・質問」するグループを入れ替えて，第２グループの発表（45 分）を行います。



○発表グループの FDer は，セッション中，全員がポスター横に待機してください。各発表時間内では発表と質問時間の区切りは設けませんので，回ってきた閲覧者に対して，適宜ポスターの説明や質問対応を行ってください。

○閲覧・質問グループの FDer 及びその他参加者（一般参加の教職員，学修支援アドバイザー）は，自由にポスターを囲み，発表者へ意見・質問してください。

○セッション中に直接できなかった質問は，「質問カード」に記入し，発表者へ手渡すか，回収用封筒に入れてください。

【その他】

○今回のポスターセッションは，学修支援アドバイザーが閲覧者として参加します。学生の目線からの意見を積極的に求め，教育実践向上に活かしてください。

ポスターセッション　発表タイトル一覧

氏　名	ポスター番　号	発　表グループ	ポスタータイトル
丸山　浩明	1	①	私の教育　理念と実践
小川　俊輔	2	②	平成28年度後期～平成29年度前期に実施した授業について
柳川　順子	3	①	全学共通教育科目「留学生と学ぶ広島」授業改善の試み（平成 28 年度後期）
柳川　順子	4	②	国際文化学科における授業改善への組織的取組―学科専門必修科目「国際文化学概説」を例として―
柳川　順子	5	①	全学共通教育科目「異文化としての日本」授業改善の試み（平成 29 年度前期）
岡本　弘道	6	②	海域アジア史に関する動画教材作成の試み～東アジア地域史論演習における PBL 授業実践を通じて～
杉山　寿美	7	①	学生の主体的な学修としての Calbee Future Labo「新商品開発プロジェクト」をより深化させる組織的な取り組み
谷本　昌太	8	②	食品衛生学実験（行動型学修）
粟島　浩二	9	①	粟島ゼミにおける取組
和田　崇	10	②	和田ゼミにおける取組
足立　洋	11	①	専門演習でのアクティブ・ラーニング
小川　仁士	12	②	経営情報学科の情報処理技術者資格学修支援
冨田　哲治	13	①	統計学を使った問題の発見から解決の取り組み
広谷　大助	14	②	担当講義におけるアクティブラーニングへの取り組み
馬本　勉	15	①	地域情報発信論における複合型アクティブ・ラーニングの実践　4 年間の授業改善を中心に
馬本　勉	16	②	ICT を活用した「参加型」英語アクティブ・ラーニング
藤田　景子	17	①	生物科学演習での取り組み
荻田　信二郎	18	②	生命科学分野の教育・研究の深化を目指した講義の改善
三苫　好治	19	①	「有機分析化学・環境有機分析化学」の授業公開について
楠堀　誠司	20	②	庄原キャンパス「体育実技Ⅰ」における今年度の改善点～学修の PDCA サイクルおよび他者からのフィードバックの強化～
藤井　宣彰	21	①	教育学におけるプレゼンテーション評価の作成　－受講者によるルーブリックを用いた相互評価－
本岡　直子	22	②	語学におけるグループワークを取り入れた参加型学修
井上　誠	23	①	精神看護学領域における授業改善について
黒田　寿美恵	24	②	実践しているアクティブラーニング・看護学科の取り組みの紹介（平成 28 年度後期～平成 29 年度前期）
塩川　満久	25	①	大学体育における総合性拡大の試み－参加型アクティブラーニングの実践（体育実技Ⅱ：山寺）－
塩川　満久	26	②	人間工学におけるアクティブラーナーの育成－NIE による情報連結と再構成－
吉川　ひろみ	27	①	動いて視覚的に理解する授業
細川　淳嗣	28	②	各授業時間におけるコンピテンシーの明確化と学生との共有
細羽　竜也	29	①	精神保健福祉援助演習のシラバス評価の取り組み―学修支援アドバイザーとの協働でのふりかえり―
江本　純子	30	②	ポート・フォリオを通じたFD実践の展開

手島　洋	31	①	全学共通教育科目「ボランティア活動」事例報告
門戸　千幸	32	②	CLAL を通じたアクティブ・ラーナ―育成と FD の課題
岡田　高嘉	33	①	【日本国憲法】平成 28 年度　後期　TBL（Team-Based Learning）の導入「憲法を写真でとろう！」
西本　寮子	34	②	全学共通教育科目「日本語表現」における取組（平成29年度前期保健福祉学部開講）
平野　実	35	ポスター展示	平野ゼミにおける取組
重安　哲也	36	ポスター展示	応用情報システム開発論における取り組み
小林　謙介	37	ポスター展示	環境科学科におけるキャリア分析に基づく課題抽出とその改善の取組
山中　道代	38	ポスター展示	県立広島大学第 1 回ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップの開催
飯田　忠行	39	ポスター展示	TBL 評価と性格特性との関連
古山　千佳子	40	ポスター展示	地域臨床実習セミナーにおけるプレイバックシアターの活用
山西　葉子	41	ポスター展示	実技試験を導入したことによる学びの変化
五條　小枝子	42	ポスター展示	全学共通教育科目「地域の理解」授業改善の試み（2016　年度）

第３回ＦＤｅｒ養成講座　意見・感想一覧

（１）良かった点

○所属の異なるＦＤｅｒ同士が一堂に会し，各々の取組・実践報告を通じて，教育内容等について学部やキャンパスを超えた情報共有を図ることができた。

○学修支援アドバイザーの研修の一環と位置づけ，アドバイザー登録済みの学生へ参加を促した。これにより３名のアドバイザーが参加し，教員と授業改善に関する意見交換を行うなど，交流を図ることができた。

（２）次回へ向けての改善点

○今回のポスターセッションが，ＦＤｅｒ養成の観点からどのように有効であったかを整理・検証し，目的を明確化する。

○後半に参加者が減った点や，発表時間が長いとの意見が多数見られたこと等を踏まえて，運営面での改善が必要である。

【改善例】

・発表時間を「ＰＲ３分，説明 20 分，質疑・応答 10 分」程度に分割。

・ラウンド形式で交流し，閲覧者がポスターの内容を評価して回る。

○学修支援アドバイザーの参加が３名と少数であったことなどから，今後の研修計画を見直し，改善案を反映させていく必要がある。

【教職員の感想・意見】

1	数々の興味深い教育実践についてご本人からうかがうことができて有益でした。ルーブリックを用いた評価については，学生相互の評価活動に積極的に活かしていきたいと思います。 一点，45 分×2 は長かったのかも知れません。後半は人数が減ってしまったようですし。ミニレクチャー30 分＋休憩 10 分＋ポスターセッション 30 分×2（途中休憩なし）くらいでいかがでしょうか。
2	植物系（生物系），化学系など分野毎のグループで関連講義のすり合わせや内容の充実，講義の手法などの共有などを各キャンパス，学科内で早急に進める必要性を感じました。
3	FDer になったのは今年の 4 月からだったため，ポスターで報告出来る内容が乏しく，大変戸惑いました。 本日，他の先生方のポスターを拝見し，何が求められていて，どんなことをすればようのか，明確になりました。 各ポスター及び報告から，教育内容，方法等学ぶことが多かったです。これを今後の教育活動に活かす所存です。どうもありがとうございました。
4	○他の先生の授業手法を具体的に学ぶことができ，大変参考になりました。早速，実行してみます。 ○生の声を聞けて，参考になりました。今までの FD 会の中で，一番伝わって来た会でした。
5	先生方の取り組みについて，直接聞くことができてよかった。 1 点だけ，参加者にネームプレートをつけてほしい。大変失礼ながら，全員の名前が分かっている訳ではないので。
6	各先生の創意工夫が見られて参考になりました。ゆっくりと意見交換が出来るポスターセッションはよかったと思いますが，少し時間が長かったように思います。責任時間のない，自由に見て回れる時間があってもよかったと思います。
7	ポスターセッションは意義があったと思う。 ただ，年 1 回くらいが良いのではと思う。
8	・自身の講義の参考となる事例が多くあり興味深かった。 ex. ふりかえりシート（復習チェック）の活用，実技試験を座学試験にとりこむ，インストラクター（学生）の活用，学生を直接講義内容に関わらせる
9	それぞれの先生方の意欲的な取り組みがよくわかりました。 参加者が少なかったのがとても残念でした。
10	自分の実践について，多くアドバイスをいただき感謝しています。 また，他の先生のポスターの説明から多くのヒントを得ることができました。
11	普段交流することの少ない他キャンパスの先生方といろいろとお話することができてよかった。学修支援アドバイザーの参加が少なかったのは残念ですが…
12	他の FDer の方々のとりくみが分かって勉強になった。直接お話しや，意見がいただけてよかった。ただ，閲覧だけをする時間がほしかった。 また，授業の取り組みについて発表する場合は，受講者の数と，年次などの基本情報を書いておいてほしかった。
13	他学科の先生の実践を知るいい機会となりました。自分の授業でも応用できる部分も多くあった。例えば，細川先生の「㉘各授業時間におけるコンピテンシーの明確化」は，ルーブリックに通じる部分があり，参考になる。
14	アクティブラーニング＝能動的学習と捉える限りでは，実勢にはが FDer がいなくともかなり大多数の先生方が講義ないしゼミにおいてアクティブラーニングを取り入れた教育を実践されているという印象です。意見交換をしてみると，「能動的」たらしめる工夫はきちんと実践されていても，学外実習などを行っていないこと

	でご自身はアクティブラーニングをされていないと思われていた先生もおられましたが，お話を伺ってみると立派なアクティブラーニングでした。
15	他の分野の教育内容を知ることができて，とても興味深かった。受けてみたい授業もあった。とても良い企画だと思った。
16	他学科の授業工夫や課題など知る機会になった。 参考にして授業に取り入れてみたいことなどもあった。
17	①いきなり対談ではなく，全員に対する短いプレビュー（3 分程度）してから。 ②ポスターのサイズを A1→A0 で。
18	・他学科の取組みを知ることができた。 ・第②グループ時の参加者が少なかった。
19	ポスター発表の説明については，完全に自由というより，一斉に発表する時間と自由に回る時間を設定した方が良いのではないかと感じた。
20	具体的な何か習得できた，というよりは，志を同じくする先生方の顔を見，お話できたことは幸いでした。モチベーションが高まりました。 先に授業見学をしたことで，その授業についてのポスターセッションを聞くことができれば良かったと反省しています。
21	準備が大変だったと思いますが，お疲れ様でした。成果に歯がゆい面があるかとも思いますが，焦らずじっくりゆっくりとできることを着実に進めていくことも大切です。長い目で見たいただければ幸いです。
22	他の先生方のとりくみ拝見できて有意義だった。 発表時間が長く，途中休憩があると後半に人数が少なくなるので，時間を 1 時間ていどとして休憩をなしにしてほしい。
23	理系の――学（――論や――演習ではなく）というような授業でアクティブラーニングの実践例はありますか？
24	○真面目な教員の真摯な取り組みが見られてよかった。FDer 以外の教員も研修で成果が見えるような取り組みが必要であろう。 ○FDer 以外へ拡げる工夫，授業参観の在り方など毎回毎回ながら見直していく必要があると思います。
25	先生方がそれぞれの科目で工夫をして授業されていることを知り，勇気をいただきました。自分が授業を行う中で困っていることについて，ポスターの中に改善の示唆が得られたり，先生方と意見交換を行いながら様々なヒントをいただきました。参加の機会を与えられたことに感謝します。
26	・事前にポスターを読む時間があると良いと思った。→例えば事前に，集まったポスターファイルを共有ファイルで共有するなど。 ・様々な取り組みがあり，参考になった。
27	○自戒を込めて書きますが，TBL や PBL などシステマティックな方法論を採用されている方が見られたが，まずは，ファシリテーターとしての実力を上げること，その認識が不足しているように思えた。 ○自分が行っていることを文字化することは大変有意義なことでした。広く拡げていきたいものです。
28	他キャンパスの授業（分野の異なるもの）をきかせていただくのは，興味深かった。
29	・45 分は長く，時間配分に改善が必要。 ・ポスターの中身に趣旨が生かされていないものがあった。評価が必要ではないか ・学修支援アドバイザーの研修とした意味があったのか。 ・ポスターセッションがセッションになっていない部分があった。
30	・誰が発表者か判別できるよう，参加者には名札を着用させたほうが良い。 ・後半に閲覧者が減らないよう，対策が必要である。例えば，①グループと②グループのポスターは，それぞれの発表時間以外は人目に触れさせないほうが良い。（ホワイトボードの表面と裏面に分けて貼るなど）

【学修支援アドバイザーの感想・意見】

1	どのポスターの内容からも，授業を工夫されている様子が見られ，自分も是非参加してみたいと思うものも沢山ありました。自分の大学の先生がこんなふうに創意工夫をして授業改善をされているのだということを知り，大変嬉しく思いました。また，このような取組みがあると，先生方も「へーそんな取組みもあるのか！面白い。今度やってみよう。」とおっしゃっている方もいて，大変有意義であると実感しました。 学修支援アドバイザーの参加が増えるともっといいと感じました。特に，庄原Ｃのからの方が０だったのが残念。
2	今回は養成講座に参加させていただきありがとうございました。他のキャンパスではどのような講義が開かれているのか，どのような教育方法が用いられているのか大変興味を持ちました。私の学科では，教育方法を改善するのは難しいのではとも考えておりましたが，想像もしなかった授業形態も多く見られ，可能性がまだまだあるように思いました。 アクティブラーナーを養成する方法として，今日の様に授業のポスターを受講前に見るような形態をとるのは良いのではないかと考えました。具体的な内容が把握でき，興味を持てる講義が多くありました。
3	今回，学修支援アドバイザーとして参加させていただきました。他学科の授業内容を知ることができ，自分たちが行っていることとは全く異なる分野の話が聞けて楽しかったです。自分が受けた講義の先生とは，講義の中でやってみたかったことや，評価方法の改善案など，様々なことを話すことができたため，今後の講義の改善につなげることができたのではないかと思います。参加させていただき，ありがとうございました。

【当日の様子】

第１回　県立広島大学
ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ

日程：2017 年９月 21 日（木）

集合時間・場所：2017 年９月 21 日（木）午前９時 30 分

場所：県立広島大学　三原キャンパス　会議室

〒723-0053　三原市学園町 1-1

TEL　0848-60-1120（代表）

主催：県立広島大学保健福祉学部

【目的】

◇ティーチング・ポートフォリオ（ＴＰ）の更新
◇ＴＰの更新を通じた教育改善
◇本ワークショップの評価と改善
◇参加者の情報交換とネットワークづくり

【スケジュール】

9:30～10:00	オリエンテーション（司会：山中） ■副学部長挨拶 ■自己紹介 ■ワークショップの趣旨と進行説明（北野） ■ティーチング・ポートフォリオについてのおさらい（北野）
10:00～10:30	相互メンタリングに向けて、相手の TP を読み込む
10:30～12:00	相互メンタリング 私のメンタリング会場（　　）
12:00～13:00	意見交換会＋昼食
13:00～16:00	ＴＰ更新作業＆プレゼンテーション準備
16:00～17:30	プレゼンテーション＆修了式（司会：山中） ■プレゼンテーション ■修了証の授与 ■学長補佐挨拶 ■ワークショップを振り返って（北野） ■記念撮影
18:30～20:30	情報交換会（任意参加） 17：55 にバス停に集合して移動（17：57 発のバスに乗ります）

メンタリング相手のメールアドレス　　（　　）
私のスーパーバイザーのメールアドレス　（　kitano@osaka-pct.ac.jp　）

更新後の本文は、9月 29 日（金）22:00 までに、メンタリング相手とスーパーバイザーにメール添付で提出

【プレゼンテーション】

◇プレゼンテーションでは、カバーページとしてハイライトを A4 一枚にまとめたものを配布してもらいます。
◇発表３分、質疑応答２分の予定です。

第1回県立広島大学TP更新WSスケジュール（2017年9月21日）

9:00

10:00 （A）オープニング　趣旨と進行説明・TPについてのおさらい（全体会場）

（B）相互メンタリングに向けて、相手のTPを読み込む（全体会場）

11:00 （C）相互メンタリングセッション（2人1組、全体会場、人数が多いときは別室を用意）
（1）TPを作成して変わったこと（自分、周囲）、元に戻ってしまったこと
（2）チェックシートをもとに変更箇所について確認（理念については特に念入りに）
（3）添付予定のエビデンスについて確認

12:00 （D）ランチタイム&意見交換会（全体会場）

13:00

14:00 （E）更新&プレゼン資料作成（4601で個人作業）

15:00

16:00 （F）更新プレゼンテーション&修了式（全体会場）

17:00

18:00 片付け・移動

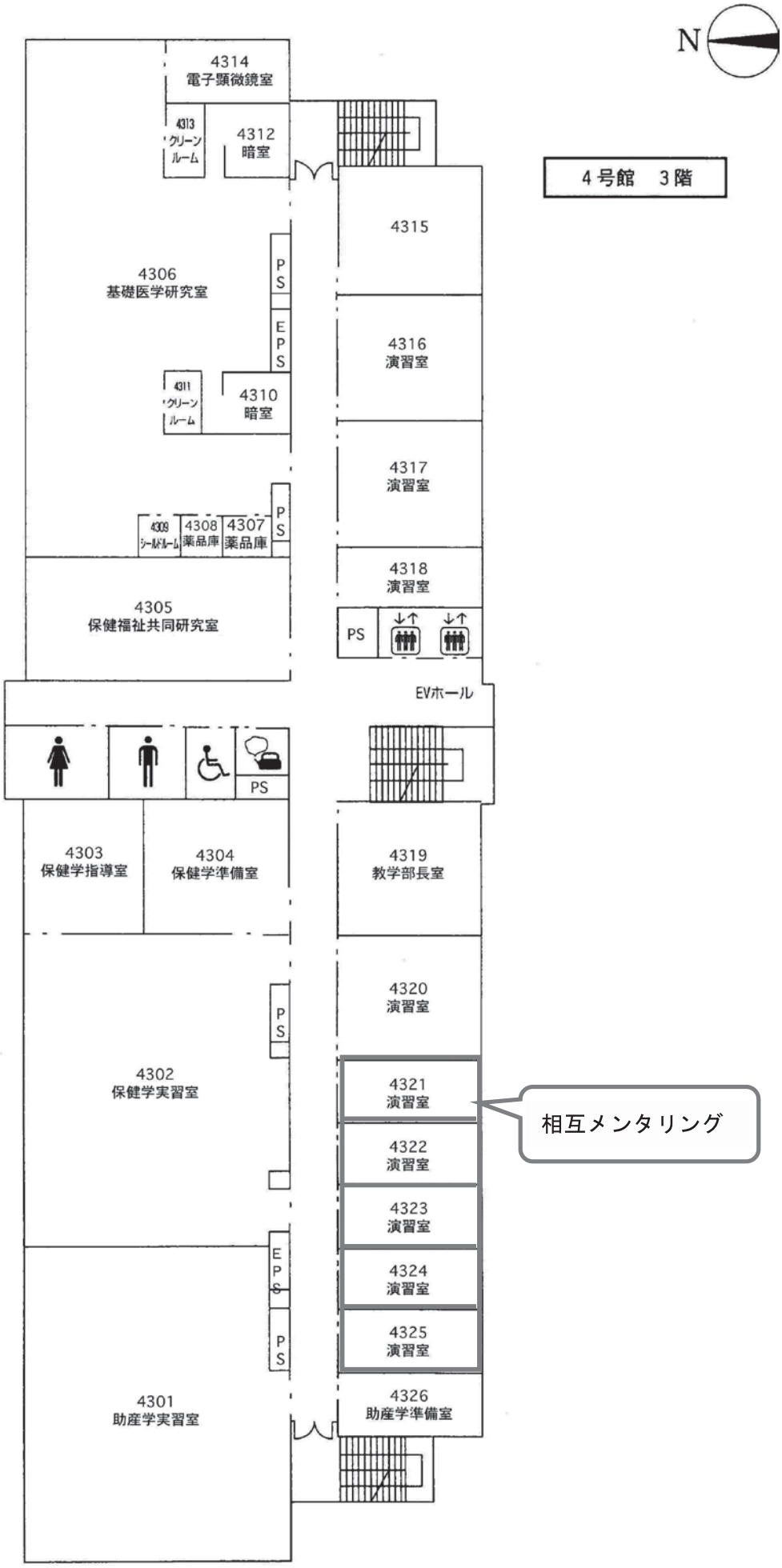
19:00 （G）情報交換会（任意参加）

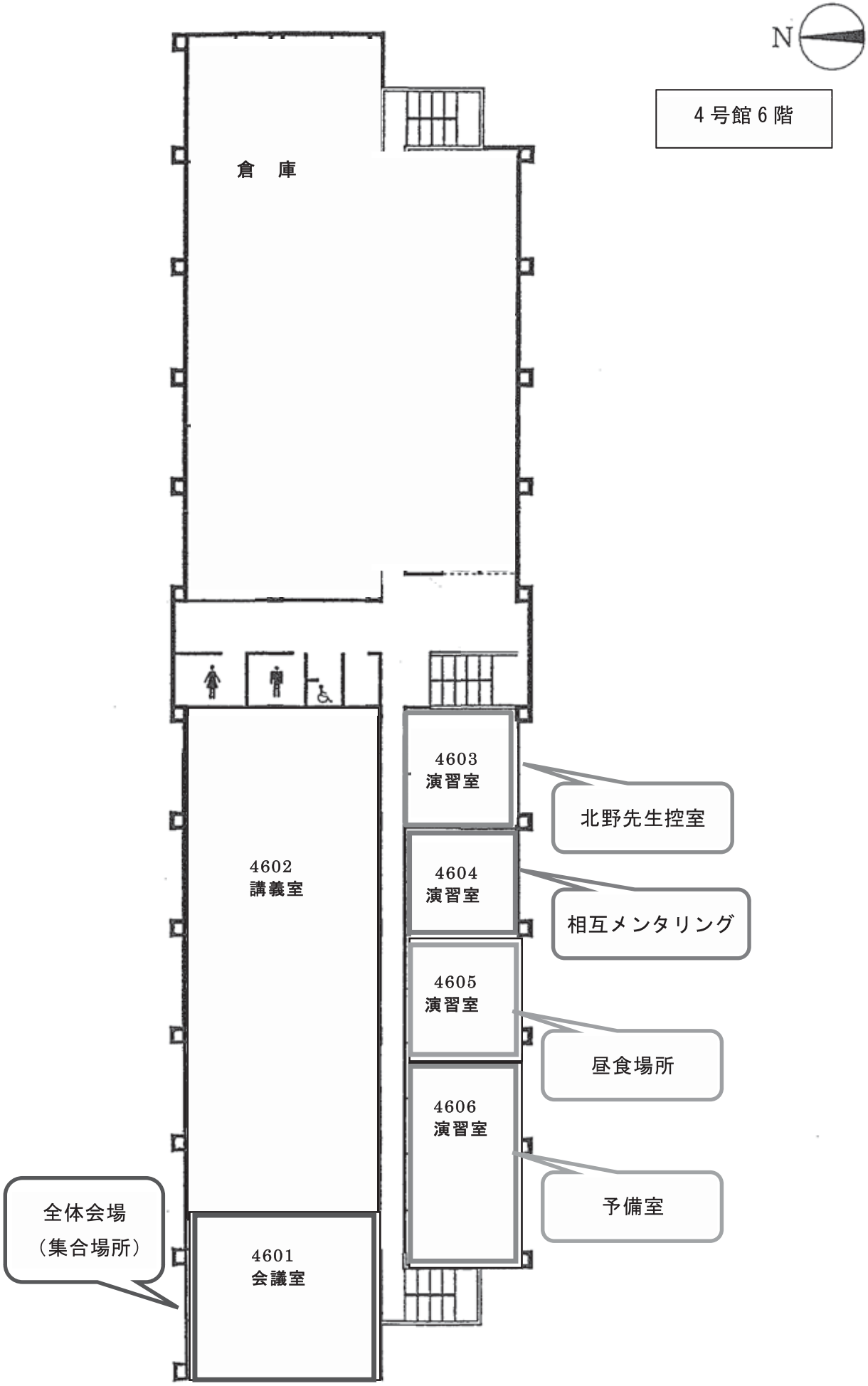
20:00

21:00

相互メンタリング組み合わせ

	所属	学科	氏名	所属	学科	氏名	使用演習室
1	庄原	生命科学	馬本　勉	三原	人間福祉	江本純子	4321
2	庄原	生命科学	荻田信二郎	三原	看護	黒田寿美恵	4322
3	庄原	生命科学	藤田景子	三原	作業療法	吉川ひろみ	4323
4	三原	看護	井上　誠	三原	作業療法	高木雅之	4324
5	三原	看護	船橋眞子	三原	人間福祉	吉田倫子	4325
6	三原	人間福祉	松宮透高	三原	看護	山中道代	4604


N
4号館　3階
4314
電子顕微鏡室
4313
クリーンルーム
4312
暗室
4306
基礎医学研究室
PS
EPS
4311
クリーンルーム
4310
暗室
4309
シールドルーム
4308
薬品庫
4307
薬品庫
PS
4305
保健福祉共同研究室
4315
4316
演習室
4317
演習室
4318
演習室
PS
EVホール
PS
4303
保健学指導室
4304
保健学準備室
4319
教学部長室
4320
演習室
PS
4302
保健学実習室
4321
演習室
4322
演習室
4323
演習室
4324
演習室
4325
演習室
EPS
PS
4301
助産学実習室
4326
助産学準備室
相互メンタリング


N
4号館6階
倉　庫
4603
演習室
北野先生控室
4604
演習室
相互メンタリング
4605
演習室
昼食場所
4606
演習室
予備室
4602
講義室
全体会場
（集合場所）
4601
会議室

ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ

日程：2017 年 9 月 21 日（木）
場所：県立広島大学三原キャンパス 4 号館演習室

スーパーバイザー：1 名

所　属	職　名	氏　名
大阪府立大学工業高等専門学校	教授	北野　健一

更新者：12 名

所　属	職　名	氏　名
生命環境学部生命科学科	教授・学長補佐	馬本　勉
生命環境学部生命科学科	教授	荻田　信二郎
生命環境学部生命科学科	助教	藤田　景子
保健福祉学部看護学科	准教授	井上　誠
保健福祉学部看護学科	准教授	黒田　寿美恵
保健福祉学部看護学科	助教	船橋　眞子
保健福祉学部看護学科	准教授	山中　道代
保健福祉学部作業療法学科	講師	高木　雅之
保健福祉学部作業療法学科	教授・副学部長	吉川　ひろみ
保健福祉学部人間福祉学科	准教授	江本　純子
保健福祉学部人間福祉学科	准教授	松宮　透高
保健福祉学部人間福祉学科	講師	吉田　倫子

FDer 自己評価ルーブリック

	A. 実践力	B. 応用力	C. 基礎力
１．組織的教育改善	カリキュラム・ポリシー（編成方針，教育・評価方法）をアクティブ・ラーニング（ＡＬ）の観点から点検し，カリキュラム上の課題の指摘と，改善のための提言ができる。	大学入学以前に培った「学力の３要素」をさらに発展・向上させ，学生を社会に送り出すために必要なことがらを説明できる。	「学力の３要素」とは何か説明できる。
	□ほぼ達成（６点）　□半分程度達成（５点）	□ほぼ達成（４点）　□半分程度達成（３点）	□ほぼ達成（２点）　□半分程度達成（１点）
２．ＡＬ実践と普及	ＡＬの授業を公開するとともに，他者の授業を参観し，助言することができる。	ＡＬの手法を用いて授業を行い，その振り返りにより授業改善を図ることができる。	AL とは何か説明できる。
	□ほぼ達成（６点）　□半分程度達成（５点）	□ほぼ達成（４点）　□半分程度達成（３点）	□ほぼ達成（２点）　□半分程度達成（１点）
３．学修成果の把握	アクティブ・ラーナーとしての到達度をはかるルーブリックを作成・活用し，学生の伸長を可視化することができる。	ルーブリックの活用法を理解し，作成することができる。	ルーブリックとは何か説明できる。
	□ほぼ達成（６点）　□半分程度達成（５点）	□ほぼ達成（４点）　□半分程度達成（３点）	□ほぼ達成（２点）　□半分程度達成（１点）
４．学修支援アドバイザーとの協働	学修支援アドバイザーと協働し，アクティブ・ラーナーを育てる授業をすることができる。	学修支援アドバイザーの役割を理解し，その活動の具体例を示すことができる。	学生による学修支援の意義が説明できる。
	□ほぼ達成（６点）　□半分程度達成（５点）	□ほぼ達成（４点）　□半分程度達成（３点）	□ほぼ達成（２点）　□半分程度達成（１点）

・１～４の各項目について，現在の到達段階を「A. 実践力」（６～５点），「B. 応用力」（４～３点），「C. 基礎力」（２～１点）で自己評価する。その際，A～C に記述された内容について，「ほぼ達成」「半分程度達成」のいずれかを選び，□にチェックを入れる（チェック方法は，黒い■で統一する）。）

・平成２９年度中に，少なくとも１～４のいずれか一つについて，A（実践力）の段階に到達するよう努める。その際，各 FDer が１～４のどの項目に注力するか，キャンパス内の FDer 間で調整する。

アクティブラーニングの実践と普及

○飯田　忠行　　保健福祉学部
原田　淳　　総合教育センター
荻田　信二朗　　生命環境学部
総合学術研究科生命システム科学専攻長

年度末までの目標

・ピアレビューを通じて、授業改善を推進する
・県大型アクティブラーニングの質的改善に繋げる

1. 公開する講義数
2. ピアレビューの総括
   ・ピアレビューを受けた先生の意見
      内容→改善・今後の対応
      参観シートの問題点、参観シートの改善提案
      参観者に対する意見
   ・ピアレビューを行った先生の意見
      参観者の立場からの参観シートの問題点、改善点
3. 中等教育授業参観
   参観した感想
   今後の参観における前向きな意見

公開講義数の増加
FDer以外の方の公開講義↑：浸透しつつある

（前期）

		広島キャンパス	庄原キャンパス	三原キャンパス
公開科目数		13科目	11科目	11科目
公開コマ数		19コマ	27コマ	14コマ
公開者数		12人	8人	11人
	FDer	10人	8人	11人
	FDer以外	2人	0人	0人

（後期）

		広島キャンパス	庄原キャンパス	三原キャンパス
公開科目数		１５科目	１４科目	２５科目
公開コマ数		４６コマ	４７コマ	６５コマ
公開者数		１３人	８人	２３人
	ＦＤｅｒ	１３人	８人	１１人
	ＦＤｅｒ以外	０人	０人	１２人

公開講義数の参観者数
横ばい：他業務との兼ね合い
FDer以外の教員が興味関心が必要

（前期）

		広島キャンパス	庄原キャンパス	三原キャンパス
参観者数		11人	19人	16人
	FDer	9人	19人	16人
	FDer以外	2人	0人	0人

（後期）

		広島キャンパス	庄原キャンパス	三原キャンパス
参観者数		9人	23人	14人
	FDer	9人	23人	12人
	FDer以外	0人	0人	2人

ピアレビューの総括
客観的視点・学生目線での評価を改善
ディスカッションの実施

ピアレビューを受けた先生の意見
(a)講義への対応

自分でも気になっていた点の指摘
改善を考えてみようと試みた
客観的な授業評価の機会
建設的なコメントで有益
グループワークの問題点の指摘
遠隔講義システムの問題点

→

改善や工夫の再確認
問題を教員間で共有
自信を持ってさらに磨きをかける
自分を戒めることにもつながるので有意義
報告だけでなく、直接ディスカッションできる手法で両者の意思疎通

(b)講義中の学生

学生の目線になっての意見
学生たちの姿を可視化
（見落としがち・見えないふり）

→

意義を感じる
注意・工夫する点が明確にできた
参観者と話し合いでアイデアの創出

ピアレビュー（参観シート）の意見
講義への反映に活かされる

ピアレビューの意見
　ピアレビューを受けた、または、行った先生からの意見

(a)評価としての問題点

学生の動きの観点を評価する形式となっているが、評価が難しい。
座学の公開授業もあり、シートが不適。

→

ALer育成：将来の問題意識の創造、問題解決能力の涵養のため、学生の動きを評価
講義に合ったシートの作成や参観者へのアナウンス

ピアレビュー（参観シート）の意見
改善の余地あり

ピアレビューの意見
(b)評価細目の問題点

観点項目
・協働と社会性は似ているため、協働性にまとめる
・該当しない場合は、評価を記入しなくてもよい
　社会性はグループワーク等を対象にしているため座学に向かない
追加項目
・ALとして教員が工夫していること：AL自体の評価
・「工夫が見られて参考になる点」、「改善の可能性がある点」等、自由記載
・具体例の追記・修正
・何割程度の学生が集中しているのか

(c)評点の問題点

「評価＝３－２－１」→「評価＝３－２－１－対象外」
「評価」の基準「３－２－１」が不明のため、下部に注釈をいれる
3件法程度の量的評価ではなく、定性的評価の方がよいのではないか

ピアレビュー（参観シート）の意見
改善の余地あり

ピアレビューの意見
(d)改善への提言

・参観シートの項目とアクティブラーナー自己評価ルーブリックは適切に関連を持った方がよいのではないか？
・参観シートだけでは授業公開した教員にどれほどのものがフィードバックされているのだろうか？評価項目と具体的な授業の改善方法にどの程度の影響力があるのか？
・講義の流れを記載しながらコメントする参観シートでもよいのでは？
　ex)「正規性講義」→「空欄部分の穴埋め」→「評点」：「気づき」

↓

今後の方針

項目の精査
評点の明確化
自己評価ルーブリックとのリンク
高校と共通教育、共通教育と専門教育、専門教育と大学院、この3つ接続を鍵にピアレビューの評価方法考案

参観者に対する意見
工夫が必要

参観者に対する意見

(d)改善への提言

・連続授業や「講義－演習」と一連で行っている講義がある。
・講義内容の把握
・建設的なコメントや提案の希望
・参観者数を増やしてほしい

今後の方針

・参観する時間が、講義のどの部分にあたるという情報を得る（公開者から提供する）必要
・講義資料の配布
・参観者への意図の共有
・全学教員に授業参観の勧め
・参観者の質の向上：ワークショップや学会への参加

中等教育授業参観
活きる授業とマッチングが重要

(a)新たな発見

・「自分で考える⇒話し合う（学び合う）⇒発表する」という一連のサイクル
　生徒は自らが行うべきことを把握し集中していた。
・ディベートにおいて
　さまざまな視点や観点からの議論、是か、否かを問うような検討
　姉妹校短期留学や弁論大会、英語ディベート大会など
・講義資料や講義内容の表現力

(b)学びたいこと

・グループワークやペアワークができない（心理的な負担等）生徒・学生へのケアはどうすればよいのかという点
・高校における問題点、落ちこぼれ対策、危機管理

(c)問題点

・授業形態や教科の違いもあり、活かせるヒントは得られなかった。
→講義内容を把握してマッチングが必要

中等教育授業参観
繋がりをもつ

(d)今後の方針

・高校との意見交換や交流などの増加希望
　目的・方法・期待する結果・評価が明確、構造化
　授業改善を推進するうえで重要な取り組み
　構造化された授業のメッセージ性を体感
　高大接続を意識した講義の在り方
　　高校側のスタンダード（進学校、普通科高校、実業的高校）と大学側（戦略）とのすり合わせ：
　　高校と共通・専門教育との接続

・高校と大学との接続において
　相互の授業を参観して、フィードバックしていけるような関係作りは必要

本学における組織体制改善提案
FDerのリード、明確な方針・基盤構築

本学の体制への提言

ALの実践や普及に対して
　FDerがリードしていくことを意識すべき
　同時に
　FDer以外の教員が興味関心をもっていくことが必要

中等教育授業参観を受けて
人材育成目標に従い，各教科の学修内容と連結させてグローバル人材を育成するプロジェクトの進め方は，非常に参考になる．
事業が一定の成果を得るためには，各部局が協力し役割分担を行いながら，目標に向けてのPDCAサイクルを着実に行っている

本学の現状
・AP事業における意思・意図が伝わっていない
・管理指示系統が不明確なうえで事業進行

各部局がコミュニケーションを図り、しっかりとした方針・基盤整備が必要

ALの実践や普及
今後の検討課題

ピアレビューの内容を踏まえ…

今後の方針

・公開授業については　ベストプロフェッサーなどの学生に支持されている講義を積極的に公開（数ではなく質の共有）

・講義者と参観者が直接ディスカッションを行い、よりよい講義を実施する方法を考案

・Tips集のようなものを作り、教員（参観できない教員や導入検討教員）が参照し、共有できる仕組みをつくり、WGを発足し導入に関するQ and Aに取り組める体制づくりが必要

・中等高等教育機関との人脈構築は必要

ALで目指すもの
問題意識の創造、問題解決能力の涵養

高等学校 → 大学 → 社会

講義・演習
自らが学ぶ

フィールドワーク・実習
問題意識の創造

臨床実習等・社会
問題解決能力の涵養

バスの乗り間違いで道に迷って、親にTEL ：間違えたことを学ぶ	どうやったら戻れるかを人に尋ねて ：問題把握	教えてもらい戻れると思ったバスが違う方向に ：問題解決手段の模索	バスを降り、目印となる建物に向かって3km歩く ：問題解決能力の涵養
簡単に解決	問題意識の創造、問題解決能力の涵養		

（４）学修支援アドバイザー（ＳＡ）の養成

平成２９年度は，これまで全キャンパス統一で実施してきた学修支援アドバイザー（SA）の募集・養成を各キャンパスで個別に実施できるよう運用方法を見直した。その結果，前年度を大きく上回るSAの養成が実現した。

後期からはSAによる授業ピアレビューを開始し，学生が学生の学びを参観することを通じて，SA 自身の学びを振り返り，また教員に授業改善のヒントを与える機会となった。

資　料

（４）－１　第３回ＦＤｅｒ養成講座　ＳＡの意見・感想一覧

（４）－２　取組まとめ（教育改革フォーラム　FDer グループ４報告資料）

■学修支援アドバイザーの養成について

＜前年度評価委員会における指摘事項（抜粋）＞

・学修支援アドバイザーが身につけられる能力及び成長内容の可視化
・アドバイザーの量的拡大や研修の早期化
・学生を主体とした自律・自立的な活動の増加
・支援を受ける側のニーズに合わせた支援方法の検討

＜平成２９年度事業推進計画＞

●引き続き学修支援アドバイザー候補者を募集し，養成研修を実施する。アドバイザーは，他者の学びを支援することで自身が学ぶ喜びを感じ，生涯学び続けるアクティブ・ラーナーとなるために必要な知識や技術の習得に努める。ラーニングコモンズでの学修支援に加え，教員の求めに応じて授業支援にあたる。
●学修支援アドバイザーに対する教職員の理解を深め，より良い学修支援アドバイザーのあり方を探るため，教職員対象の研修会を開催するとともに，教職員による学修支援アドバイザーのサポート体制を確立する。

＜平成２９年度事業推進状況＞

（１）学修支援アドバイザーの養成

【実施概要】

１　学修支援アドバイザーの定義

授業内外において本学学生への学修支援を行う学生であり，他者の学びを支援すること等を通じて，自身が学ぶ喜びを感じ，生涯学び続けるアクティブ・ラーナーを目指す者。

２　学修支援アドバイザーの役割

①　所定の日時にラーニングコモンズに待機し，学生の学修相談に応じる。
②　文献検索や課題作成，ＰＣ等機器の操作について支援を行う。
③　自身が得意とする教科の学習指導（リメディアル教育）を行う。
④　学修支援や学習指導を内容とする学内イベントを企画・実施する。
⑤　担当教員の指示を受けて，事前学修を含む授業外学修のサポートや，授業（演習，実験及び実習を含む）内での授業運営支援を行う。
⑥　授業計画の策定の際に，教員の求めに応じて，授業改善に資する意見を述べる。
⑦　他者を支援・指導する立場として，知識・見識を広めるための努力をする。

３　役割ごとの活動場所

	学修相談・学習指導に係る活動	授業支援に係る活動	その他
役割	① ② ③ ④	⑤ ⑥	⑦
活動場所	ラーニングコモンズ（図書館）	講義室等	学内外

４　本年度の学修支援アドバイザーの養成人数

キャンパス他	１年	２年	３年	４年	大学院	合計
広　島	2	5	0	3	0	10
庄　原	0	1	2	0	1	4
三　原	6	17	34	22	0	79
H29 養成人数	8	23	36	25	1	93
SA 総数（累計）	8	23	41	47	10	129
（参）H29.4	0	0	5	22	9	36

５　学修支援アドバイザーの支援活動状況

＜ラーニングコモンズにおける支援活動状況＞

下記のとおり，ラーニングコモンズにおける学修支援，学修相談会（図書館），前期・後期試験対策相談会等の支援を行った。

期	内容	広島	庄原	三原
前期	活動人数	9 人	1 人	3 人
	活動時間	37.17 時間	18 時間	21 時間
後期	活動人数	6 人	1 人	11 人
	活動時間	26 時間	3 時間	60 時間
総計	利用人数※	141 人	101 人	65 人

※履修相談会等，多数の学生への同時支援を含む。

＜授業等における支援活動状況＞

下記のとおり，授業等における支援を行った。

期	内容	広島	庄原	三原
前期	活動人数	０人	４人	２５人
	活動時間	0 時間	30 時間	181 時間
後期	活動人数	８人	３人	３２人
	活動時間	52.5 時間	9 時間	113.7 時間

（主な支援内容）

キャンパス	主な授業支援内容
広島Ｃ	・「健康教育プログラム論」における実習準備，学生への助言 ・CALL 教室における機器の貸出・管理（授業時間外） ・「地域の理解」合同発表会における運営補助，ポスターセッションにおける受講生への意見・助言　　等
庄原Ｃ	・英語Ⅱ，英語Ⅳ ・TOEIC 対策ｅラーニング支援　　等
三原Ｃ	・「解剖学（看護特論）における予習・復習テストへの助言 ・看護学科：模擬シナリオ・ベースド・シュミレーション演習における改善提案 ・「家族社会学」グループ発表の録画記録の補助 ・「社会福祉実習指導Ｉ」における助言 （施設見学の心構えやワークシートの書き方）　等

＜授業ピアレビューへの参加（平成２９年度新規）＞

授業担当者の授業改善に資すると共に，学修支援アドバイザーのメンター的機能を強化することをねらいとして，学修支援アドバイザーが，講義での学生の授業参観態度を観察（ピア･レビュー）し，授業担当者にフィードバックした。参観の際には，ＦＤｅｒによる授業参観シートと同じものを使用した。

シートには，学生ならではの細かな気づきも多く見られ，授業担当教員の振り返りに繋がったと共に，学生自身が自らの学修態度を振り返るきっかけとなったと思われる。

（参加学生数）広島キャンパス２名，庄原キャンパス５名，三原キャンパス１名

（参観シート）p.28「授業参観シート」のとおり。

＜第３回ＦＤｅｒ養成講座」への参加及び運営補助＞

ＦＤｅｒによるアクティブ・ラーニング実践や組織的教育改善の事例報告に係るポスターセッションに参加し，ポスター発表教員との意見交換及び発表中の補助や片付けなど，講座の運営補助を行った。参加学生は，教員の授業改善に係る努力や工夫を知ることができ，また，普段授業を受けた事がない他学科の取り組みを知ることで，知的好奇心が揺さぶられた

ようである。また，教員との意見交換において，新たな評価方法の提案などに話が及んだ学生もおり，教員側にも大きなメリットがあったと思われる。

（日時）平成２９年9月１４日（木）１３時３０分～

（場所）広島キャンパス２４５１講義室

（参加学生数）広島キャンパス１名，三原キャンパス２名

（参加学生からの感想）p. 65「第３回ＦＤｅｒ養成講座　ＳＡの意見・感想一覧」のとおり。

【成果と今後の課題】

平成２８年度から比べて大幅にアドバイザーの数が増加し，活動内容もより具体的なものに内容が深化してきた。また，ＦＤｅｒ養成講座の運営補助や，学生による授業ピアレビューへの参加等，徐々に学修支援アドバイザーの自立性を高める取組みが増えつつある。

学修支援アドバイザーとして活動した学生は，ラーニングコモンズ及び授業における他者へのアドバイザー業務を通じて，自身の知識の定着や，理解の深化に繋げることができ，また，学年を跨いだ縦の繋がりが生まれたほか，教職員を含めた人間関係が拡大したりといった，副次的な効果も同時に生まれている。このことは，学生自身の自己肯定感の向上にも繋がり，生涯を通じて学び続けるアクティブ・ラーナーの育成に有用なポイントであると思われる。

今後は，学修支援アドバイザーへの研修について，支援を受ける側の学生のニーズに合わせて内容の精緻化を行うと共に，研修に係る教員負担を軽減するため，研修内容の体系化・定型化を検討していく必要がある。今年度から開始した学生によるピアレビュー事業についても，さらなる拡大に努め，引き続き効果の把握に努める。

第3回ＦＤｅｒ養成講座　SAの意見･感想一覧

1	どのポスターの内容からも，授業を工夫されている様子が見られ，自分も是非参加してみたいと思うものも沢山ありました。自分の大学の先生がこんなふうに創意工夫をして授業改善をされているのだということを知り，大変嬉しく思いました。また，このような取組みがあると，先生方も「へーそんな取組みもあるのか！面白い。今度やってみよう。」とおっしゃっている方もいて，大変有意義であると実感しました。 　学修支援アドバイザーの参加が増えるともっといいと感じました。特に，庄原Ｃのからの方が０だったのが残念。
2	今回は養成講座に参加させていただきありがとうございました。他のキャンパスではどのような講義が開かれているのか，どのような教育方法が用いられているのか大変興味を持ちました。私の学科が看護学科ということもあり，教育方法を改善するのは難しいのではとも考えておりましたが，想像もしなかった授業体型も多く見られ，可能性がまだまだあるように思いました。 　アクティブラーナーを養成する方法として，今日の様に授業のポスターを受講前に見るような体型をとるのは良いのではないかと考えました。具体的な内容が把握でき，興味を持てる講義が多くありました。
3	今回，学修支援アドバイザーとして参加させていただきました。他学科の授業内容を知ることができ，自分たちが行っていることとは全く異なる分野の話が聞けて楽しかったです。自分が受けた講義の先生とは，講義の中でやってみたかったことや，評価方法の改善案など，様々なことを話すことができたため，今後の講義の改善につなげることができたのではないかと思います。参加させていただき，ありがとうございました。

平成29年度県立広島大学　教育改革フォーラム

ALer育成の課題と展望～高大接続時代を迎えて～
FDer役割別取組・成果報告

グループ4
「学修支援アドバイザーとの協働」

○細羽竜也　保健福祉学部　人間福祉学科
丸山浩明　人間文化学部　国際文化学科
原田浩幸　生命環境学部　環境科学科／
大学院総合学術研究科長

■学修支援アドバイザーとは

➢**県立広島大学型　アクティブ・ラーニング（CLAL）**

【目的】学生の主体性を育む能動的学修の実践

【学修支援】◇学修環境の整備　◇教職員研修の充実
◇支え合いをリードする学生の育成

➢**ピア・アドバイザー**

学生の在籍継続支援：大学生活の不安払拭，欠席学生への対応など
学生の成功モデル　：ロールモデル（見本）
教員と学生の橋渡し：“困ったときの駆け込み寺”的存在

清水栄子「学修支援アドバイザーを養成するために」本学平成27年度第5回全学FD研修会

授業内外において本学学生への学修支援を行う学生であり，他者の学びを支援すること等を通じて，自身が学ぶ喜びを感じ，生涯学び続けるアクティブ・ラーナーを目指す者。

■学修支援アドバイザーの役割

①所定の日時にラーニングコモンズに待機し，学生の学修相談に応じる。
②文献検索や課題作成，PC等機器の操作について支援を行う。
③自身が得意とする教科の学習指導（リメディアル教育）を行う。
④学修支援や学習指導を内容とする学内イベントを企画・実施する。
⑤担当教員の指示を受けて，事前学修を含む授業外学修のサポートや，授業（演習，実験及び実習を含む）内での授業運営支援を行う。
⑥授業計画の策定の際に，教員の求めに応じて，授業改善に資する意見を述べる。
⑦他者を支援・指導する立場として，知識・見識を広めるための努力をする。

すべてを担当するのではなく，アドバイザーが希望する業務に従事する。従事する業務によっては，オプションの研修を実施する場合がある。

■学修支援アドバイザーの養成

➢**養成講座のマニュアル化（キャンパス間共有）**

【内容】AP事業の紹介，CLAL実践の現状，学修支援アドバイザーの定義と役割の説明，基本姿勢と注意事項　AL形式で実施

➢**対象：本学1～4年生・大学院生**

【募集】教員推薦（随時）・一般公募（11月頃）

三原キャンパス養成講座の様子（12月実施・看護学科教員と学生の協力のもと撮影）

庄原キャンパス養成講座の様子（庄原キャンパスご提供）

■学修支援アドバイザーの養成・活動状況の概要

➢**平成29年度の学修支援アドバイザーの養成状況**

（人）

	1年生	2年生	3年生	4年生	大学院生	計
平成29年度	8	23	36	25	1	93
現在の総数	8	23	41	47	10	129

➢**平成29年度の学修支援アドバイザーの活動状況**

※アドバイザーが授業参観を行い，学生の様子を評価する事業

	ラーニングコモンズ学修支援	授業支援活動	学生間ピアレビュー※
平成29年度	31人・163.7時間	16 件（69人・377.2時間）	7 件（12人・20.0時間）
平成28年度	16人・222.0時間	3 件（5人・20.5時間）	―

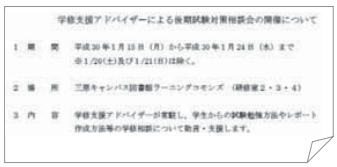
人数は延べ人数；時間はアドバイザーが従事した総活動時間

本学経営企画室からのデータのご提供
（平成30年2月27日までの暫定版）

■学修支援アドバイザーの活動の実際
①ラーニングコモンズ（図書館）での学修支援

本学ホームページより引用（広島キャンパス）

学修相談の様子：広島キャンパスにて
（広島キャンパスご提供）



学修支援アドバイザーによる後期試験対策相談会の開催について

1 期　間　平成30年1月15日（月）から平成30年1月24日（水）まで
※1/20(土)及び1/21(日)は除く。

2 場　所　三原キャンパス図書館ラーニングコモンズ（研修室2・3・4）

3 内　容　学修支援アドバイザーが常駐し，学生からの試験勉強方法やレポート作成方法等の学修相談について助言・支援します。

三原キャンパスでの定期試験対策相談会案内（抜粋）
（三原キャンパス学術情報センター企画・運営）

■学修支援アドバイザーの活動の実際
②機器の操作等支援　④AP事業イベント参加

広島キャンパス
改修後CALL教室管理・相談対応の様子
（広島キャンパスご提供）

平成29年度第3回FDer養成講座（広島キャンパス）
FDerによるポスター発表への参加
（広島キャンパスご提供）

■学修支援アドバイザーの活動の実際
⑤授業外学修支援・授業運営支援

➢ **授業外学修支援**

講義	「解剖学概論」における個別学修支援
講義	「英語Ⅱ」，「英語Ⅳ」におけるTOEIC対策ｅラーニング支援

➢ **授業運営支援**

講義	「英語Ⅱ」，「英語Ⅳ」における授業運営支援
講義	「解剖学（看護特論）」における予習・復習テストへの助言など
講義	「家族社会学」におけるグループ発表の録画記録の補助
演習	「統合実習」における演習サポート
演習	「成人看護学」における演習サポート
演習	「母性看護方法論」における学修サポート
演習	「日常生活援助方法論Ⅱ」における演習補助及び助言
実習	「健康教育プログラム論」における実習準備，学生への助言
実習	「運動学実習」における実験補助及び助言
実習	「解剖学実習」における補助及び助言
実習	「社会福祉実習指導Ⅰ」における助言（施設見学の心構えやワークシートの書き方）

「社会福祉実習指導Ⅰ」での活動状況
人間福祉学科吉田先生ご提供

■学修支援アドバイザーの活動の実際

➢看護学科における事業の組織的活用事例

表1.看護学科における学修支援アドバイザーの取り組み　（参加学生数n=58）

取り組みの内容		学年	参加学生数	学修支援アドバイザーの役割
解剖学	個別学習支援	4	1	①学修指導
統合実習	演習サポート	4	10	⑤授業運営支援
成人看護学	事前学修・演習サポート	4	9	
日常生活援助方法論Ⅱ	演習サポート	4	2	
母性看護方法論	演習サポート	4	3	
シミュレーション演習（FD）	学習者役・意見交換	3・4	21	⑥授業改善に資する意見
国際交流事業	引率	3・4	2	⑦知識・見識を広める努力
	企画	2・4	4	
	プレゼンテーション	4	6	

表3. 自由記述から得られた学び

カテゴリ・サブカテゴリ	記述数
個人の学びの深まり	
自分自身の勉強になった	22
学びの振り返りの機会となった	11
新たな学びを得ることができた	5
改めて考える機会となった	4
学修意欲が高まった	3
国家試験対策になった	2
学修支援アドバイザーの態度を身に付けることができた	1
他者との協働学修	
説明する力をつける機会となった	8
相互学修によって学びを深める機会となった	7
他学年との相互学修がよかった	5
交流することができた	9

※看護学科井上先生からのご提供

■学修支援アドバイザーの活動の実際

⑥授業改善への協力

演習	「模擬シナリオ・ベースド・シミュレーション演習」における授業改善の提案
演習	「精神保健福祉援助演習」における授業改善の提案

➢ 「精神保健福祉援助演習」における取組

【科目の特徴】

「精神保健福祉現場実習」の前後に配置される科目であり，精神保健福祉士養成に関わる講義科目と実習での取り組みをつなぐ役割

【協力のポイント】

○実習での具体的な課題解決に役立つ課題内容の提案

○自律した学修者（アクティブ・ラーナー）を養成する科目としての妥当性の検討

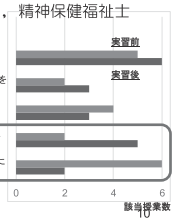
【知識・応用】修得した知識や技能を，他人に教えたり，問題解決に役立てる

【意見・表明】自ら組み立てた明確な意見を持ち，相手に的確に伝えることができる

【課題・解決】熟考して得られた課題解決方法を，的確な方法で実行できる

【自律・意欲】社会の諸問題に関心を持ち，主体的に学び続ける心構えができている

【共感・協働】相手を尊重し，目標の達成に向けて協働することができる



➢ 実習前には【共感・協働】の重要性を学び，実習後には【自律・意欲】の向上を図る内容になっていたと評価

■学修支援アドバイザーの活動の実際

⑥授業改善への協力（学生間ピアレビュー事業）

学修支援アドバイザーが，講義での学生の様子を授業担当者にフィードバックする取り組み（平成29年度新規事業）

【協力科目】

○留学生と学ぶ広島	○英語Ⅳa，英語Ⅱb	○環境システム学
○適応の心理	○植物工学	○調理学実験

【実施方法】

ピアレビュー事業に用いている授業参観シートを活用し，当該授業中の学生の授業参加態度を評価する。

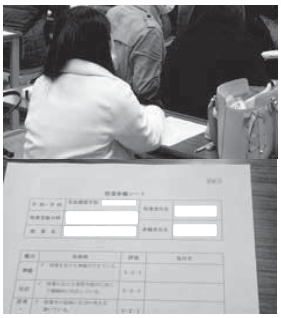
【ねらい】

授業担当者の授業改善に資する取り組みであると同時に，学修支援アドバイザーのメンター的機能を強化する取り組み

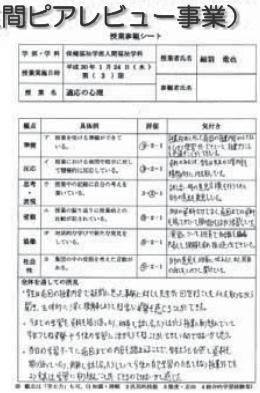
ピアレビュー中のアドバイザー（広島キャンパスご提供）

■学修支援アドバイザーの活動の実際

⑥授業改善への協力（学生間ピアレビュー事業）



ピアレビュー中のアドバイザーと参観シート（庄原キャンパスご提供）



■学修支援アドバイザーを行う理由

➢学修支援アドバイザーの皆さん（理学療法学科；N=14）のご協力

Q. 学修支援アドバイザーをして良かったことはありますか？（はいと答えた方：85.7%）

効　果	内　容
【知識の定着】	知識の定着
	知識の定着（解剖学実習）
&【再学習の動機付け・指導の資質向上】	後輩に教える機会があったことで，自分の知識の確認や既習のことでも忘れていて復習が必要なことが明確になったから
	後輩に教えることで深い知識になった。基礎を学べる機会になった。
	役に立てた時。自身の理解への内省が得られた。
	自分自身の知識，学習到達度の把握をすることができ，足りない部分を再確認することができた。自分自身の学習へのモチベーションが向上した。
	後輩に教えることで再学習できる点。自分も勉強するきっかけができた。
	自分の知識の再学習。教える側での深みなど。
	自分のための学習の場を得ることができた。他者に教えることで復習となった。責任感が生まれた。
	ある程度の責任を伴う事になる為，自分が学修するモチベーションにもなった。
&【つながり・広がり】	下の代に教えて自分の中で知識がまとまった。下の代とつながりができた。
	他学科の考えや学修方法等を知ることができた。
&【待遇】	給与が出る点。

※理学療法学科佐藤先生からのデータのご提供

■学修支援アドバイザーを行う理由

Q. 次年度も学修支援アドバイザーを継続したいですか？（はいと答えた方：85.7% ）

効　果	内　容
【学修機会の増加】	学習の機会を増やすため。
	下の代と学習することで新しいことを学べたり，自分の中でもまとめれそうだから。
	学習を進めた状況で，また自分の知識がどの程度身についているのかを確認し，さらなる向上を行うことができると思うからです。
	他者へ説明することで反復することができ知識の定着を行うことができると思うからです。
	自分の勉強になる。
	先生とのディスカッション・意見交換の楽しさ。
	学ぶきっかけができる。
	教えた分，自分にも知識がつくから。
	図書館を積極的に利用できるようになるため。
【支援の意義】	一人で悩んでいたり，解決できないで困っている学生の受け皿になり，一緒に解決していきたい。
	学修支援アドバイザーに登録したが，自身の忙しさから全く活動に参加できなかったので，何かやってみたい気もちはあります。
	まだ活動経歴が浅く，まだ学生の役に立てる点があるのではないかと考えているため
	経験・知識のシェア。
	何か利益をもたらせたかは分からないが，来年度はその点も意識しながらもう一度参加したい。
【待遇】	給与が出るから。
	バイトでお金をもらうよりも時間が拘束されず，勉強しながら給与が発生するから。
	4年はバイトにでにくいところに給与が発生するアドバイザーはありがたい。

※理学療法学科佐藤先生からのデータのご提供

■「学修支援アドバイザーとの協働」で目指すもの

高等学校
学力の形成

社会における実践・貢献
「人間力」の発揮へ

大　学
「人間力」の形成

他者の学びを支援すること等を通じて，自身が学ぶ喜びを感じ，自律的学修に動機づけられる学修支援アドバイザーの経験

○アドバイザー業務を通じてのロールモデルとしての自覚

○他者への貢献を通じての学ぶことの意義の体感

○学年間・友人間・教職員との人間関係の拡大